

# Sun Fire X4800 サーバー Windows オペ レーティングシステム設置マニュアル



Part No: 821-2246  
2010年6月

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

# 目次

---

はじめに .....	5
製品情報 Web サイト .....	5
関連マニュアル .....	5
このドキュメントについて (PDF および HTML) .....	7
ドキュメントのコメント .....	7
変更履歴 .....	8
Windows インストールの概要 .....	9
Windows インストール作業の概要 .....	11
Windows Server 2008 のインストールを始める前に .....	13
サポートされている Windows オペレーティングシステム .....	13
Windows Server 2008 のインストールに関する考慮事項 .....	14
Windows Server 2008 R2 と Windows Server SP2 のインストール手順の相違点 .....	16
メディアの取得方法の選択 .....	17
Windows メディアの取得方法 .....	17
Sun Installation Assistant (SIA) .....	19
SIA の作業の概要 .....	19
SIA の入手 .....	20
サーバーソフトウェアのダウンロード .....	21
サーバーソフトウェアのダウンロード方法 .....	21
遠隔コンソールの設定 .....	23
JavaRConsole システムのセットアップ方法 .....	23
仮想ディスクの作成 .....	31
仮想ディスクの作成方法 .....	31
ブートドライブを設定する方法 .....	45
Windows Server 2008 のインストール .....	47
Windows Server 2008 のインストール方法 .....	47
PXE を使用した Windows Server 2008 のインストール方法 .....	52
必須ドライバの更新と追加ソフトウェアのインストール .....	55

---

必須デバイスドライバのインストール .....	55
追加ソフトウェアのインストール .....	57
MegaRAID Storage Manager を使用した RAID の管理 .....	59
IPMItool .....	60
Trusted Platform Module のサポートの設定 .....	60
Intel NIC チューニングの設定 .....	61
WDS 用の WIM イメージへのデバイスドライバの組み込み .....	63
Tools and Drivers DVD 上のデバイスドライバの場所 .....	63
WIM イメージに組み込むデバイスドライバ .....	64
デバイスドライバ WIM イメージの前提条件と作業概要 .....	65
WIM イメージへのドライバの組み込み .....	68
Tools and Drivers DVD の ISO イメージのダウンロード .....	76
Windows でのネットワークインタフェースの確認 .....	79
サーバーのアクティブなネットワークデータポートの特定方法 .....	79
物理ポートの MAC アドレスの確認および Windows デバイス名へのマッピング方法 .....	80
索引 .....	87

# はじめに

---

ここでは、関連するドキュメントと、フィードバックを送信するプロセスについて説明します。またドキュメントの変更履歴も示します。

- 5 ページの「製品情報 Web サイト」
- 5 ページの「関連マニュアル」
- 7 ページの「このドキュメントについて (PDF および HTML)」
- 7 ページの「ドキュメントのコメント」
- 8 ページの「変更履歴」

## 製品情報 Web サイト

Sun Fire X4800 サーバーの詳細については、Sun Fire X4800 サーバーの製品サイトを参照してください。

<http://www.oracle.com/goto/x4800>

このサイトには、次の情報やダウンロードへのリンクがあります。

- 製品情報および仕様
- サポートされているオペレーティングシステム
- ソフトウェアおよびファームウェアのダウンロード
- サポートされているオプションカード
- 外部ストレージオプション

## 関連マニュアル

次の一覧は、Oracle Sun Fire X4800 サーバーに関連するドキュメントの一覧です。これらのドキュメントとその他のサポートドキュメントは、次の Web サイトで入手できます。

<http://www.oracle.com/goto/x4800>

ドキュメントグループ	マニュアル名	説明
Sun X4800 サーバー固有のドキュメント	Sun Fire X4800 サーバー製品ドキュメント	アスタリスク (*) が付いているすべてのドキュメントの統合 HTML 版。検索と索引が含まれる。
	『Sun Fire X4800 サーバーご使用の手引き』	図を多用した、設定のためのクイックリファレンス。
	『Sun Fire X4800 サーバー設置マニュアル』	最初の電源投入までの、サーバーの設置、ラック取り付け、および設定方法。
	『Sun Fire X4800 サーバーご使用にあたって』	サーバーに関する重要な最新情報。
	『Sun Installation Assistant 2.3 through 2.4 User's Guide for x64 Servers』	サポート対象の Windows または Linux OS の補助付きインストール、ファームウェアのアップグレード、およびその他の作業に使用する Sun のツール。
	『Sun Fire X4800 サーバー Oracle Solaris オペレーティングシステム設置マニュアル』	Oracle Solaris OS をサーバーにインストールする方法。
	『Sun Fire X4800 サーバー Linux オペレーティングシステム設置マニュアル』	サポート対象の Linux OS をサーバーにインストールする方法。
	『Sun Fire X4800 サーバー Windows オペレーティングシステム設置マニュアル』	サポート対象のバージョンの Microsoft Windows をサーバーにインストールする方法。
	『Sun Fire X4800 Server Diagnostics Guide』	サーバーの問題を診断する方法。
	『Sun Fire X4800 サーバーサービスマニュアル』	サーバーのサービスと保守の方法。
『Sun Fire X4800 Server Safety and Compliance Guide』	サーバーの安全性および適合性に関する情報。	
『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル Sun Fire X4800 サーバー』	サーバーの Integrated Lights Out Manager のバージョン固有の補足情報。	
『Sun x64 Server Utilities Reference Manual』	サーバーにインストールされているユーティリティの使用方法。	
保守ラベル	シャーシと CPU モジュールにある保守ラベルのコピー。	

ドキュメントグループ	マニュアル名	説明
Sun 統合コントローラ ディスク管理	『Sun x64 Server Disk Management Overview』	サーバーの記憶域の管理に関する情報。
x86 Servers Applications and Utilities Reference のド キュメント	『Sun x64 Server Utilities Reference Manual』	サーバーにインストールされているユーティリティの使用方法。
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Documentation (以前の Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ド キュメント)	『Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Feature Updates and Release Notes』	ILOM の新機能に関する情報。
	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Getting Started Guide』	ILOM 3.0 の概要。
	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Concepts Guide』	ILOM 3.0 の概念に関する情報。
	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface Procedures Guide』	ILOM を Web インタフェースを通じて使用する方法。
	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI Procedures Guide』	コマンドによって ILOM を使用する方法。
	『Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Management Protocols Reference Guide』	管理プロトコルに関する情報。

## このドキュメントについて (PDF および HTML)

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。トピックに基づく形式 (オンラインヘルプと同様) で情報が表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

## ドキュメントのコメント

製品ドキュメントの品質向上のため、お客様のご意見、ご要望をお受けしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/secure/products-n-solutions/hardware/docs/feedback>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルとパーツ番号を記載してください。

## 変更履歴

このドキュメントセットには次の変更が加えられています。

- 2010年4月 - 設置マニュアルのリリース
- 2010年6月 - 設置マニュアルおよびご使用の手引きの再リリース
- 2010年7月 - その他のドキュメントの初回リリース

# Windows インストールの概要

---

この節では、Microsoft Windows Server 2008 R2 (64 ビット) および Windows Server 2008 SP2 オペレーティングシステムを Oracle Sun Fire X4800 サーバー にインストールする方法を説明します。

Windows Server 2008 R2 と Windows Server 2008 SP2 のインストール手順は、次の点で異なります。

- デバイスドライバのディレクトリの場所。
  - 19 ページの「[Sun Installation Assistant \(SIA\)](#)」を参照してください。
  - 63 ページの「[WDS 用の WIM イメージへのデバイスドライバの組み込み](#)」を参照してください。
  - 63 ページの「[Tools and Drivers DVD 上のデバイスドライバの場所](#)」を参照してください。
- Windows 自動インストールキット (AIK) のダウンロードサイト。
  - 64 ページの「[WIM イメージに組み込むデバイスドライバ](#)」を参照してください。
- Windows Server 2008 SP2 の場合、外部ストレージドライバはインストールされません。ドライバは、接続された CD/DVD または USB フラッシュドライブからアクセス可能である必要があります。
  - 47 ページの「[Windows Server 2008 のインストール](#)」を参照してください。
- Windows Server 2008 SP2 WDS インストール環境の場合、デバイスドライバリポジトリは提供されていないので、手動で作成する必要があります。
  - 65 ページの「[デバイスドライバ WIM イメージの前提条件と作業概要](#)」を参照してください。

この節では、次の項目について説明します。

- 13 ページの「[Windows Server 2008 のインストールを始める前に](#)」
- 19 ページの「[Sun Installation Assistant \(SIA\)](#)」
- 21 ページの「[サーバーソフトウェアのダウンロード](#)」
- 17 ページの「[メディアの取得方法の選択](#)」
- 23 ページの「[遠隔コンソールの設定](#)」
- 31 ページの「[仮想ディスクの作成](#)」
- 47 ページの「[Windows Server 2008 のインストール](#)」

- 55 ページの「必須ドライバの更新と追加ソフトウェアのインストール」
- 63 ページの「WDS 用の WIM イメージへのデバイスドライバの組み込み」
- 79 ページの「Windows でのネットワークインタフェースの確認」

# Windows インストール作業の概要

---

Windows Server 2008 R2 を手動でインストールするには、次の手順に従います。

1. 取得方法を選択します。  
17 ページの「メディアの取得方法の選択」を参照してください。
2. 必要な Sun ソフトウェアとサーバー固有ドライバをダウンロードします。  
21 ページの「サーバーソフトウェアのダウンロード」を参照してください。
3. Windows メディアの取得方法を選択します。  
17 ページの「メディアの取得方法の選択」を参照してください。
4. 遠隔コンソールから Windows を Sun サーバーにインストールする場合。  
23 ページの「遠隔コンソールの設定」を参照してください。
5. 仮想ディスクを作成します。  
31 ページの「仮想ディスクの作成」を参照してください。
6. Windows Server 2008 をインストールします。  
47 ページの「Windows Server 2008 のインストール」を参照してください。  
52 ページの「PXE を使用した Windows Server 2008 のインストール方法」を参照してください。
7. Windows の初期インストール後、必須ドライバと追加ソフトウェアをインストールします。  
55 ページの「必須ドライバの更新と追加ソフトウェアのインストール」を参照してください。  
これらの手順により、サーバーに全機能セットがインストールされます。
8. デバイスドライバを WIM イメージに組み込みます。  
63 ページの「WDS 用の WIM イメージへのデバイスドライバの組み込み」を参照してください。
9. ネットワークインタフェースを確認します。  
79 ページの「Windows でのネットワークインタフェースの確認」を参照してください。

次項:

13 ページの「Windows Server 2008 のインストールを始める前に」

# Windows Server 2008 のインストールを始める前に

---

この節では、Sun Fire X4800 サーバー への Microsoft Windows Server 2008 R2 (64 ビット) オペレーティングシステムのインストールを開始する方法を説明します。

この節では、次の項目について説明します。

- 13 ページの「サポートされている Windows オペレーティングシステム」
- 14 ページの「Windows Server 2008 のインストールに関する考慮事項」
- 16 ページの「Windows Server 2008 R2 と Windows Server SP2 のインストール手順の相違点」

## サポートされている **Windows** オペレーティングシステム

本書の発行時点で、Sun Fire X4800 サーバーは、次の Microsoft Windows オペレーティングシステムをサポートしています。

- Microsoft Windows Server 2008 R2
  - Standard Edition (64 ビット)
  - Enterprise Edition (64 ビット)
  - Datacenter Edition (64 ビット)
- Microsoft Windows Server 2008 SP2 Standard Edition (64 ビット)
  - Standard Edition (64 ビット)
  - Enterprise Edition (64 ビット)
  - Datacenter Edition (64 ビット)

サポートされるオペレーティングシステムの最新リストは、次の URL で確認できます。

Sun Fire X4800 製品ページ (<http://www.oracle.com/goto/x4800>)

次項:

14 ページの「Windows Server 2008 のインストールに関する考慮事項」

## Windows Server 2008 のインストールに関する考慮事項

Sun サーバーへの Windows Server 2008 オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、次の重要な考慮事項について検討してください。

- Windows オペレーティングシステムをインストールすると、インストール済みのオペレーティングシステムを含むブートドライブ上のデータがすべて上書きされます。
- オンボードの LSI 外部ストレージコントローラを使用していて、ブートドライブを RAID 構成の一部に含める場合は、そのコントローラに RAID ボリュームを設定する必要があります。

Windows をインストールする前には、サーバー起動時にプロンプトが表示された際に Ctrl-C キーを押して、LSI 統合 RAID コントローラの設定ユーティリティーを使用します。詳細は、使用しているサーバーの『Sun LSI 106x RAID User's Guide (Sun LSI 106x RAID ユーザーズガイド)』を参照してください。

---

注 - LSI MegaRAID SAS 9262-8i コントローラの RAID 仮想ディスクを作成する方法については、[31 ページの「仮想ディスクの作成」](#)を参照してください。

---

- *Windows Server 2008 R2* - Windows オペレーティングシステムの初期インストールに必要な外部ストレージドライバが含まれています。  
初期インストールには、別個のドライバディスクは必要ありません。[55 ページの「必須ドライバの更新と追加ソフトウェアのインストール」](#)の説明に従って、Windows のインストール後、サーバー固有のデバイスドライバを、すべての機能を備えた Sun のテスト済みバージョンにアップグレードします。
- *Windows Server 2008 SP2* - LSI MegaRAID SAS 9262-8i コントローラ用の外部ストレージドライバが必要です。  
[71 ページの「ブート WIM へのデバイスドライバの追加 \(Windows Server 2008 SP2 のみ\)」](#)を参照してください。
- Windows Server 2008 をインストールする際には、初級、中級、上級のユーザーレベルに応じて、次のいずれかの方法を選択できます。

説明	説明	詳細情報
初級 ユーザー向 けのインス トール方法	<b>Sun Installation Assistant (SIA)</b> を使用し て <b>Windows</b> をインストールする - 初級 ユーザーは、SIA を使用し て、ウィザードのようなインタ フェースで Windows オペレーティング システムのインストールやファーム ウェアのアップグレードを行うことが できます。SIA では、ローカルまたは リモートの CD/DVD による Windows のインストールが可能です。	19 ページの「 <a href="#">Sun Installation Assistant (SIA)</a> 」 21 ページの「 <a href="#">サーバーソフトウェアのダウンロード</a> 」
中級 ユーザー向 けのインス トール方法	手動で <b>Windows</b> をインストールする - 中級ユーザーは、本書の説明に 従って、USB ポートで接続された配布 メディアから Microsoft Windows をイン ストールできます。Windows 配布メ ディアは、遠隔コンソールを使用し て、リダイレクトされた CD/DVD ドラ イブまたは CD/DVD イメージから取得 可能です。	13 ページの「 <a href="#">Windows Server 2008 のインストールを始める前に</a> 」 21 ページの「 <a href="#">サーバーソフトウェアのダウンロード</a> 」
上級 ユーザー向 けのインス トール方法	展開サーバー環境から <b>Windows</b> をイン ストールする - 上級 ユーザーは、Windows 展開サービス (WDS) を実行しているシステム上の サーバー用に Windows インストールイ メージ (WIM) をカスタマイズできま す。こうしたインストールイメージ ファイルを作成しておくことで、ネット ワークカードからサーバーを起動し て、自動展開用に WDS システムから そのイメージを選択することが可能で す。	21 ページの「 <a href="#">サーバーソフトウェアのダウンロード</a> 」 63 ページの「 <a href="#">WDS 用の WIM イメージへのデバイスドライバの組み込み</a> 」
インス トール後	サーバー固有ドライバと追加ソフト ウェアをインストールします。	55 ページの「 <a href="#">必須ドライバの更新と追加ソフトウェアのインストール</a> 」
参照先	Windows でアクティブなネットワーク ポートを確認する方法を学びます。	79 ページの「 <a href="#">Windows でのネットワークインタフェースの確認</a> 」

#### 関連項目:

メディアの入手方法については、17 ページの「[メディアの取得方法の選択](#)」を参照してください。

#### 次項:

16 ページの「[Windows Server 2008 R2 と Windows Server SP2 のインストール手順の相違点](#)」。

## Windows Server 2008 R2 と Windows Server SP2 のインストール手順の相違点

Windows Server 2008 R2 と Windows Server 2008 SP2 のインストール手順は、次の点で異なります。

- デバイスドライバのディレクトリの場所。
  - 19 ページの「[Sun Installation Assistant \(SIA\)](#)」を参照してください。
  - 63 ページの「[WDS 用の WIM イメージへのデバイスドライバの組み込み](#)」を参照してください。
  - 63 ページの「[Tools and Drivers DVD 上のデバイスドライバの場所](#)」を参照してください。
- Windows 自動インストールキット (AIK) のダウンロードサイト。
  - 64 ページの「[WIM イメージに組み込むデバイスドライバ](#)」を参照してください。
- Windows Server 2008 SP2 の場合、外部ストレージドライバはインストールされません。

ドライバは、接続された CD/DVD または USB フラッシュドライブからアクセス可能である必要があります。47 ページの「[Windows Server 2008 のインストール](#)」および71 ページの「[ブート WIM へのデバイスドライバの追加 \(Windows Server 2008 SP2 のみ\)](#)」を参照してください。
- Windows Server 2008 SP2 WDS インストール環境の場合、デバイスドライバリポジトリは提供されていないので、手動で作成する必要があります。
  - 65 ページの「[デバイスドライバ WIM イメージの前提条件と作業概要](#)」を参照してください。

次項:

17 ページの「[メディアの取得方法の選択](#)」。

# メディアの取得方法の選択

---

Windows インストールメディアの取得方法を選択する必要があります。Windows のインストール手順は、選択したメディアの取得方法によって異なります。

次項:

[17 ページの「Windows メディアの取得方法」](#)。

## Windows メディアの取得方法

メディアの取得方法	その他の要件
<b>Windows</b> ローカル-サーバーに接続された物理 CD/DVD ドライブを使用します。	サーバーの USB ポートに直接接続された外部 CD/DVD ドライブ。  Windows のインストール方法については、 <a href="#">47 ページの「Windows Server 2008 のインストール」</a> を参照してください。
<b>DVD</b> を使用した <b>Windows</b> リモート-JavaRConsole を実行しているリモートシステム上のリダイレクトされた物理 CD/DVD ドライブを使用します。	リモートシステムとブラウザ、接続された物理 CD/DVD ドライブ、Windows 配布 DVD、サーバーの管理ポートへのネットワークアクセス。  設定方法については、 <a href="#">23 ページの「遠隔コンソールの設定」</a> を参照してください。
<b>ISO</b> イメージを使用した <b>Windows</b> リモート-JavaRConsole を実行しているリモートシステム上のリダイレクトされた CD/DVD ISO イメージを使用します。	リモートシステムとブラウザ、Windows CD/DVD ISO イメージ、サーバーの管理ポートへのネットワークアクセス。  設定方法については、 <a href="#">23 ページの「遠隔コンソールの設定」</a> を参照してください。
<b>WDS WIM</b> イメージ-Windows 展開サービス (WDS) サーバー上のカスタマイズされた Windows Imaging Format (WIM) イメージを使用します。	WDS を実行しているサーバー、使用しているサーバー用にカスタマイズされた WIM イメージ。  詳細は、 <a href="#">68 ページの「WIM イメージへのドライバの組み込み」</a> を参照してください。



# Sun Installation Assistant (SIA)

---

Sun Installation Assistant (SIA) は、Sun x64 サーバー上でさまざまな展開や回復の作業を行う際に役立つツールです。SIA は、ブート可能 CD、SIA ソフトウェアを用意した USB フラッシュドライブ、または PXE インストールサーバー上で使用可能なカスタマイズ SIA イメージから起動できます。

- 19 ページの「SIA の作業の概要」
- 20 ページの「SIA の入手」

## SIA の作業の概要

SIA を使用すると、次の作業を実行できます。

---

注-実行できる作業は、サーバーによって異なる場合があります。

---

- サーバー上の OS に関係なく、システムの BIOS、ILOM サービスプロセッサのファームウェアを最新バージョンにアップグレードします。
- サーバー上の OS に関係なく、HBA のファームウェアを最新バージョンにアップグレードします。
- LSI ベースのディスクコントローラ (SAS-1 用 1068e、または SAS-2 用 2926x および 9280) がある場合、RAID-1 ボリュームを設定します。
- サポート対象の Windows または Linux オペレーティングシステムを Sun サーバーにインストールする支援を行います。SIA が適切なドライバとプラットフォーム固有のソフトウェアをインストールするため、ドライバディスクを別に作成する必要はありません。ライセンス付与された OS 配布メディアを CD またはネットワークイメージファイルから使用し、SIA ウィザードの指示に従ってインストールを実行できます。
- Sun 提供の最新のファームウェアとドライバにより SIA セッションを更新します。

## SIAの入手

SIAは、最新のx86およびx64 Sunサーバーのオプションとして入手できます。また、SIAのISO CDイメージをSunからダウンロードすることも可能です。サポートされているSunサーバープラットフォームの全リストについては、次のSIA情報ページを参照してください。

<http://www.sun.com/systemmanagement/sia.jsp>

SIAの使用方法を解説するドキュメントは、次のSunドキュメントWebサイトで入手できます。

『Oracle Hardware Installation Assistant 2.3 through 2.5 User's Guide for x86 Servers』

# サーバーソフトウェアのダウンロード

---

サーバーのハードウェアコンポーネント用の最新ドライバやユーティリティーを含むサーバーソフトウェアは、Webまたはオプションのドキュメントメディアキットから入手できます。オペレーティングシステムのインストールを完了するには、このソフトウェアが必要です。

ソフトウェアの最新バージョンについては、OracleのWebサイトを確認してください。Tools and Drivers CD/DVDに最新バージョンのソフトウェアが含まれていない場合は、最新バージョンをダウンロードします。Tools and Drivers CD/DVDが最新である場合は、この節をスキップできます。

関連項目:

[21 ページの「サーバーソフトウェアのダウンロード方法」](#)

## ▼ サーバーソフトウェアのダウンロード方法

パッケージファイル名に含まれる `_x_x_x` の数字は、パッケージのバージョンを表します (例: `InstallPack_1_1_4.exe`)。

- 1 使用しているサーバーのソフトウェアダウンロードサイトにアクセスします。  
<http://wikis.sun.com/display/SystemsComm/Systems+Options+and+Downloads>
- 2 以下のいずれかのダウンロードオプションを選択します。
  - 配布メディア (CD/DVD または ISO イメージ) から **Windows** をインストールする場合、アクセス可能な場所に **Windows.zip** をダウンロードします。  
Windows.zip に含まれている次のサブパッケージを展開します。  
`InstallPack_x_x_x .exe`  
これは、Windows の初期インストール後に、サーバー固有デバイスドライバと追加ソフトウェアをすべてインストールするためのプログラムです。

- **Windows 展開サービス (WDS) から Windows をインストールする場合** (高度なインストール)、**Windows.zip** をダウンロードします。

68 ページの「[WIM イメージへのドライバの組み込み](#)」の説明に

従って、Windows.zip に含まれている次のサブパッケージを、WDS サーバー上の適切な Windows イメージ (WIM) フォルダに展開します。

DriverPack\_x\_x\_x.zip

(上級者向けの Windows Server のサーバー固有ドライバアーカイブ (英語版))。

Windows 2008 および Windows Server 2008 R2 のツールフォルダ (上級者向けの追加ソフトウェアアーカイブ)。

Windows 2008 および Windows Server 2008 R2 のドライバフォルダ

- 3 必要に応じて、インストール時やインストール後の作業中に、ドライバパッケージが利用可能であることを確認します。

参照 [17 ページの「メディアの取得方法の選択」](#)

# 遠隔コンソールの設定

---

この節では、JavaRConsole を使用して遠隔コンソールシステムのセットアップを行い、Sun サーバーへのオペレーティングシステムのインストールのためにネットワークを介して Windows Server メディアを取得する方法を説明します。

---

注 - 取得方法に Windows ローカルを選択した場合、[31 ページの「仮想ディスクの作成」](#)に進みます。

---

この節では、次のトピックについて説明します。

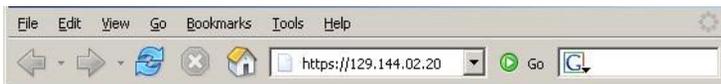
[23 ページの「JavaRConsole システムのセットアップ方法」](#)

## ▼ JavaRConsole システムのセットアップ方法

始める前に 次の要件が満たされている必要があります。

- JavaRConsole システムでは、Solaris、Linux、または Windows が実行されている必要があります。
- Sun サーバーの Ethernet 管理ポートにアクセスできるネットワークに JavaRConsole システムが接続されている必要があります。
- Java Runtime Environment (JRE) 1.5 をインストールする必要があります。
- JavaRConsole システムで Solaris を実行している場合は、JavaRConsole が CD/DVD-ROM ドライブにアクセスできるように、ボリューム管理を無効にする必要があります。
- JavaRConsole システムで Windows を実行している場合は、Internet Explorer の拡張セキュリティ機能を無効にする必要があります。
- サーバーの ILOM サービスプロセッサが、使用しているサーバーの Integrated Lights Out Manager (ILOM) ドキュメントの手順に従ってセットアップ済みです。

- 1 **Integrated Lights Out Manager (ILOM)** サービスプロセッサの IP アドレスを **JavaRConsole** システムのブラウザに入力して、リモートコンソールアプリケーションを起動します。



「Security Alert」ダイアログボックスが表示されます。

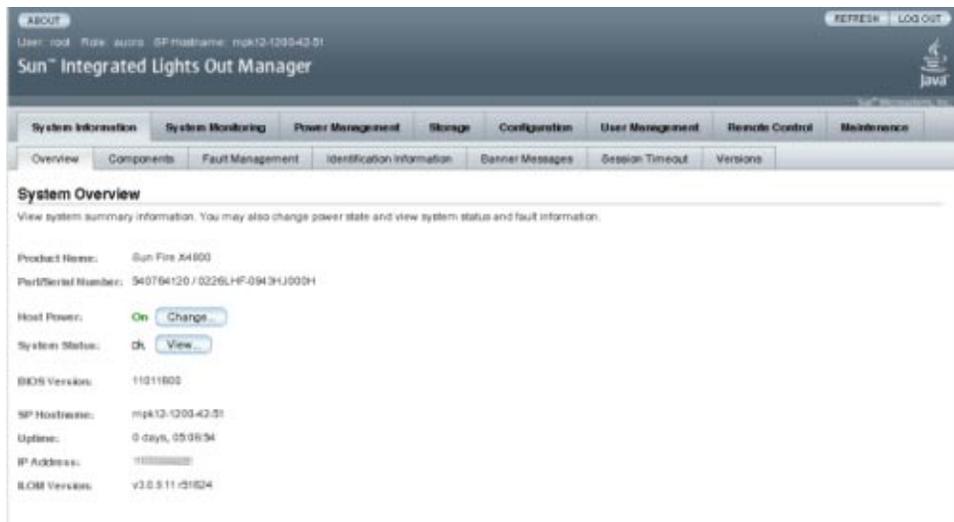


- 2 「はい」をクリックします。  
ILOM のログイン画面が表示されます。



- 3 ユーザー名とパスワードを入力し、「Log In (ログイン)」をクリックします。  
デフォルトのユーザー名は **root**、デフォルトのパスワードは **changeme** です。

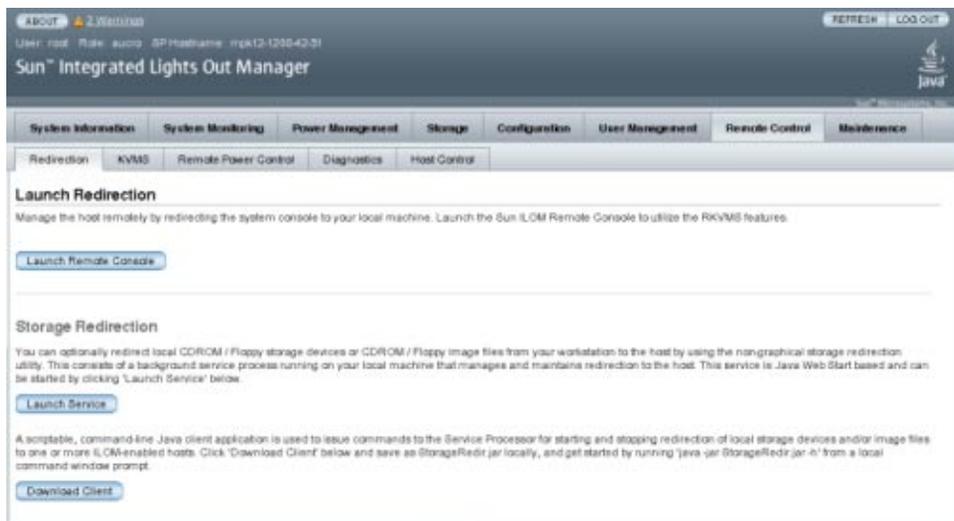
ILOM の「System Overview」画面が表示されます。



- 4 ILOM Web インタフェースで、「Remote Control」タブをクリックします。  
「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」画面が表示されます。

注 - 「Mouse Mode Settings (マウスモード設定)」タブでマウスモードが Absolute (絶対) モードに設定されていることを確認します。

- 5 「Launch Redirection」をクリックします。



---

注 - Web サイトの証明書を確認するダイアログボックスが表示された場合、続行するには「Yes」ボタンをクリックします。

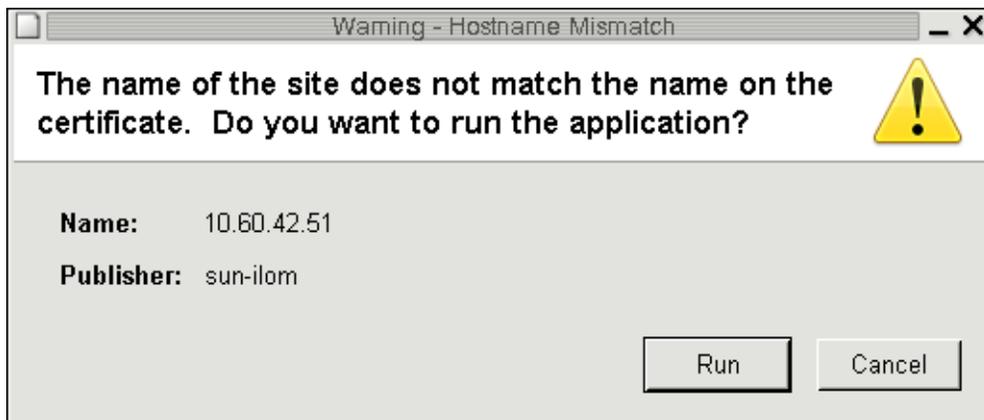
---



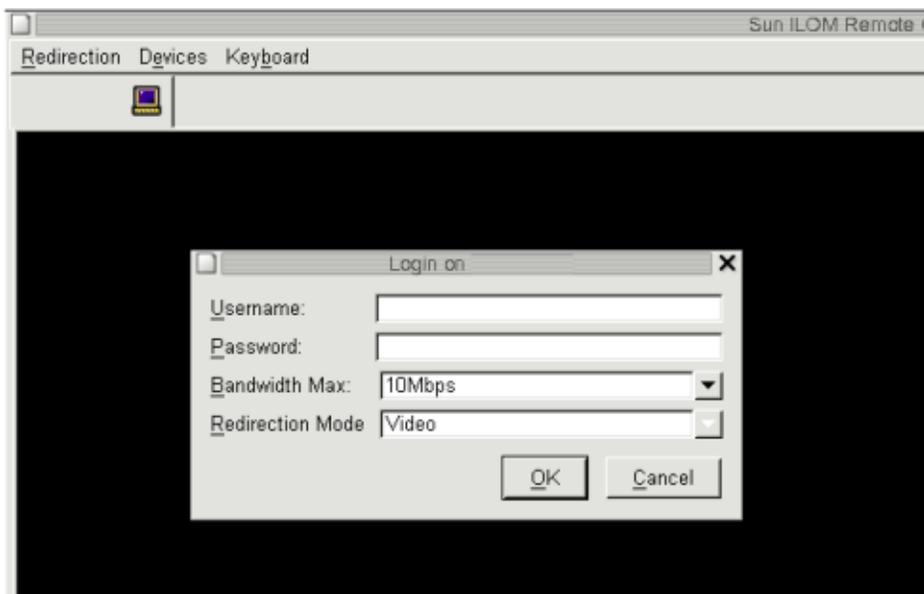
---

注 - JavaRConsole システムのリダイレクトに Windows システムを使用している場合は、警告がもう 1 つ表示されることがあります。「Hostname Mismatch」ダイアログボックスが表示されたら、「Yes」ボタンをクリックします。

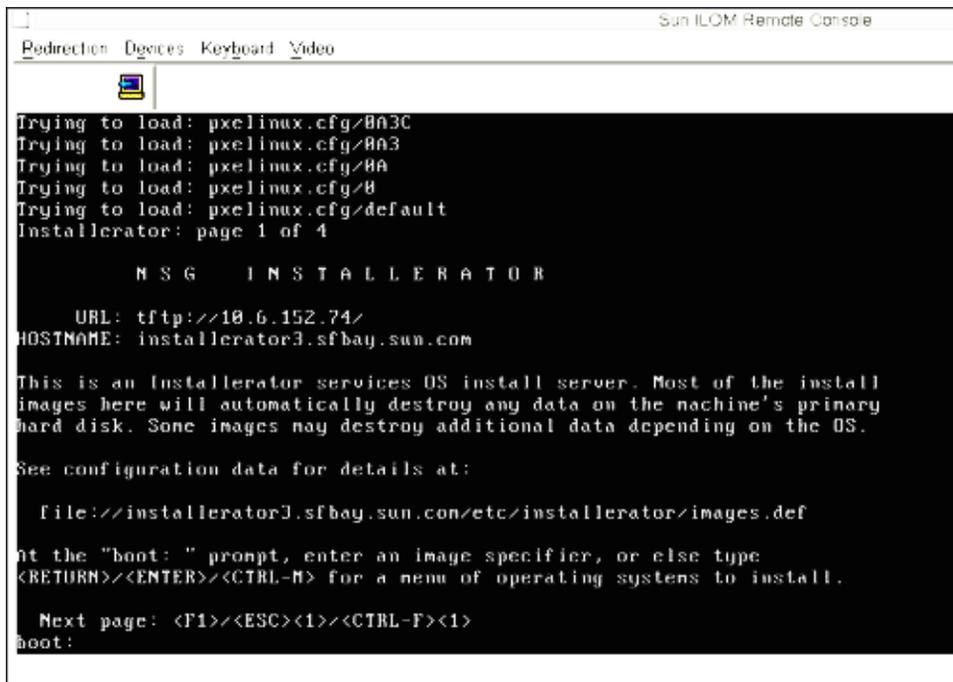
---



- 6 ユーザー名とパスワードを入力して、「OK」をクリックします。  
デフォルトのユーザー名は **root**、パスワードは **changeme** です。



正常にログインすると、次の JavaRConsole 画面が表示されます。



```

Sun iLOM Remote Console
-----
Redirection  Devices  Keyboard  Video
-----
Trying to load: pxelinux.cfg/8n3C
Trying to load: pxelinux.cfg/8A3
Trying to load: pxelinux.cfg/8A
Trying to load: pxelinux.cfg/8
Trying to load: pxelinux.cfg/default
Installerator: page 1 of 4

      M S G   I N S T A L L E R A T O R

      URL: tftp://10.6.152.74/
HOSTNAME: installer3.sfbay.sun.com

This is an Installer services OS install server. Most of the install
images here will automatically destroy any data on the machine's primary
hard disk. Some images may destroy additional data depending on the OS.

See configuration data for details at:

      file://installer3.sfbay.sun.com/etc/installerator/images.def

At the "boot: " prompt, enter an image specifier, or else type
<RETURN>/<ENTER>/<CTRL-M> for a menu of operating systems to install.

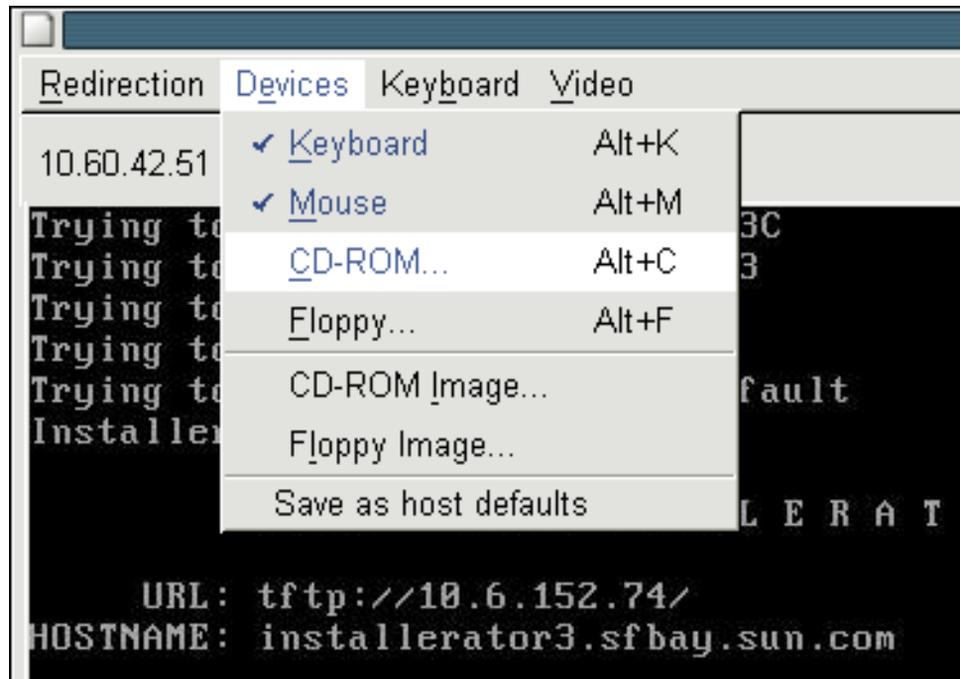
      Next page: <F1>/<ESC><1>/<CTRL-F><1>
boot:

```

- 7 「Devices」メニューから、選択した取得方法に基づいてCDのオプションを1つ選択します。
  - **CD-ROM リモート:** JavaRConsole システムに接続された CD/DVD-ROM ドライブに挿入されたオペレーティングシステムソフトウェアの CD/DVD コンテンツにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM」を選択します。
  - **CD-ROM イメージ:** JavaRConsole システム上に保存されたオペレーティングシステムソフトウェアの .iso イメージファイルにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM Image」を選択します。



注意 - 「CD-ROM」または「CD-ROM Image」オプションを使用して Windows Server をインストールすると、CD-ROM のコンテンツにネットワーク経由でアクセスするので、インストールにかかる時間が大幅に長くなります。インストールにかかる時間は、ネットワークの接続状態とトラフィックによって異なります。また、このインストール方法では、一時的なネットワークエラーにより問題が生じるリスクが大きくなります。



次の手順 47 ページの「Windows Server 2008 のインストール」

# 仮想ディスクの作成

---

オペレーティングシステムをインストールする前に、サーバー上に仮想ディスクを作成して、イメージのダウンロードに必要な領域を確保する必要があります。このダウンロードによってディスクの内容が消去されます。

仮想ディスクは、オペレーティングシステムのダウンロード用の LSI ファームウェアから作成できます。LSI ファームウェアには、サーバーの起動時のみアクセスできません。Windows が起動される前に LSI バナーが表示されているときに、Ctrl キーを押しながら H キーを押すと、LSI インタフェースが表示されます。

---

注- 仮想ディスクは、Tools and Drivers DVD の追加ドライバを通じてインストールされる MegaRAID ソフトウェアから作成することもできますが、オペレーティングシステムのインストールには使用しないでください。

---

「31 ページの「仮想ディスクの作成方法」」を参照してください。

## ▼ 仮想ディスクの作成方法

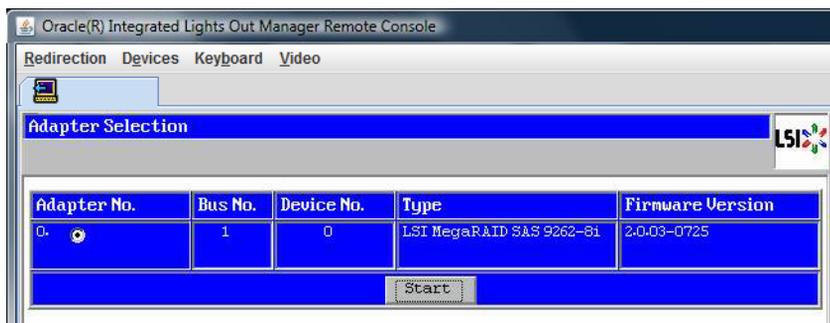
- 1 サーバーには、サービスプロセッサ (SP) モジュールの IP アドレスを使用してログインします。
- 2 GUI ウィンドウで「Remote Control」タブをクリックして、iLOM リモートコントロールを起動します。
- 3 「KVMS」タブを選択します。
- 4 「Mouse Mode」で「Relative」を選択して、「Save」をクリックします。

---

注- 「Relative」オプションを選択すると、リモートコンソールでマウスをウィンドウからウィンドウに動かすことができますようになります。この手順の最後で、このマウス設定を「Absolute」に変更するよう求められます。

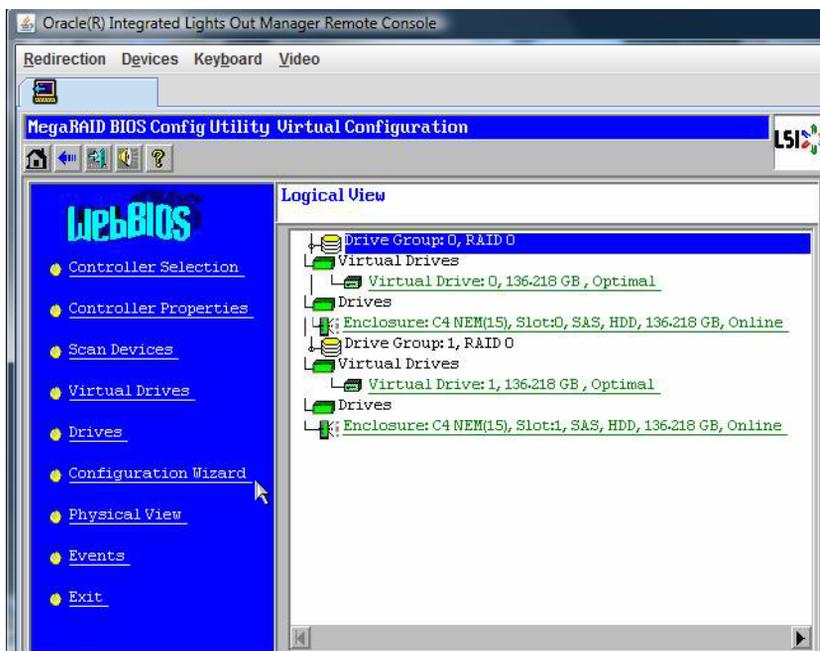
---

- 5 「Redirection (リダイレクション)」タブをクリックします。「Redirection」画面で、「Launch Remote Console」をクリックします。  
「ILOM 3.0 Remote Console」ウィンドウが表示されます。
- 6 「Devices」メニューで「Mouse」を選択してマウスを有効にします。
- 7 システムを再起動して、LSIバナーが表示されるまで待ちます。バナーページにデバイスが表示されたら、Ctrlキーを押しながらHキーを押します。
- 8 「Adapter Selection」画面で、「Start」をクリックします。

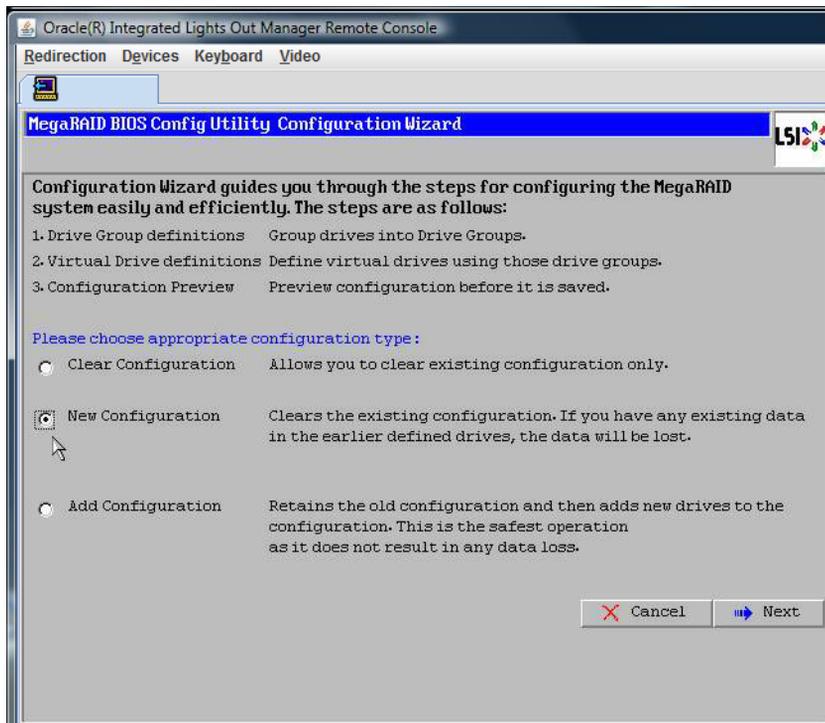


「MegaRaid BIOS Config Utility Virtual Configuration」画面が表示されます。

- 9 「MegaRAID BIOS Config Utility Virtual Configuration」画面で、「Configuration Wizard」を選択します。



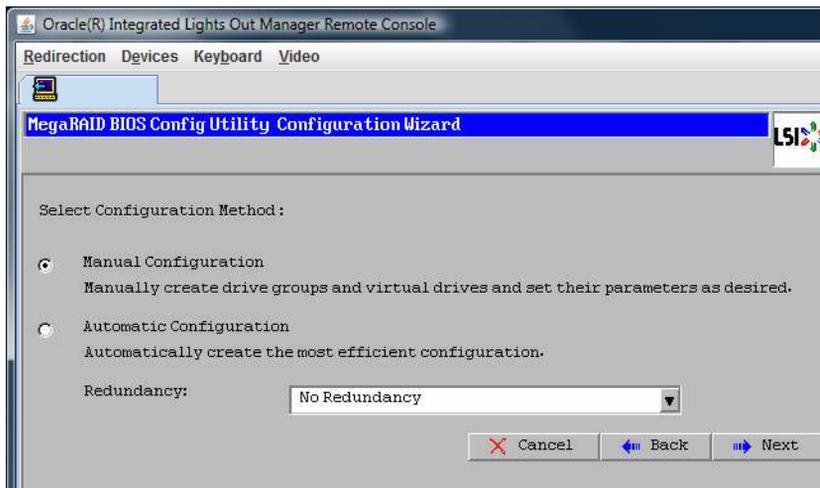
- 10 「Configuration Wizard」画面で「New Configuration」を選択して、「Next」をクリックします。



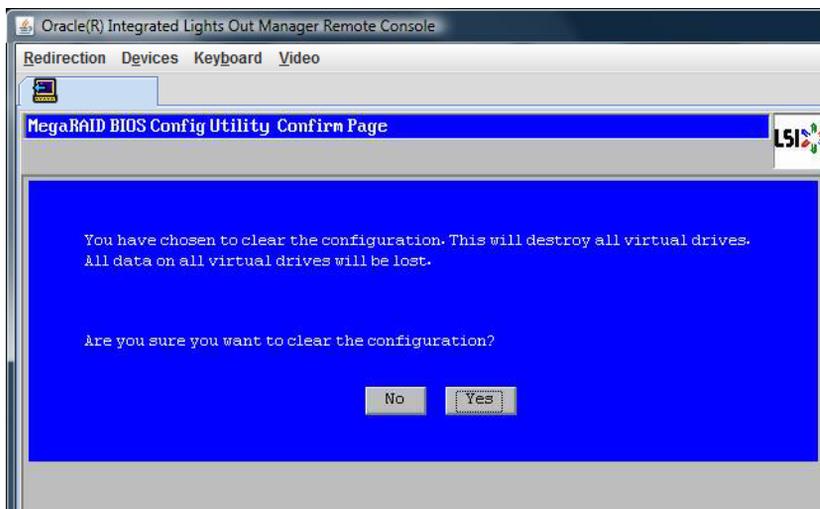
- 11 「Manual Configuration」を選択します。

「Automatic Configuration」を選択すると、システム上のすべてのハードドライブを含む単一の仮想ドライブが作成されます。複数のドライブがストライプセット (RAID0) として設定され、結合された記憶域の単一の仮想ドライブとして表示されます。これは、複数の障害ポイントが発生するため、望ましくない場合があります。

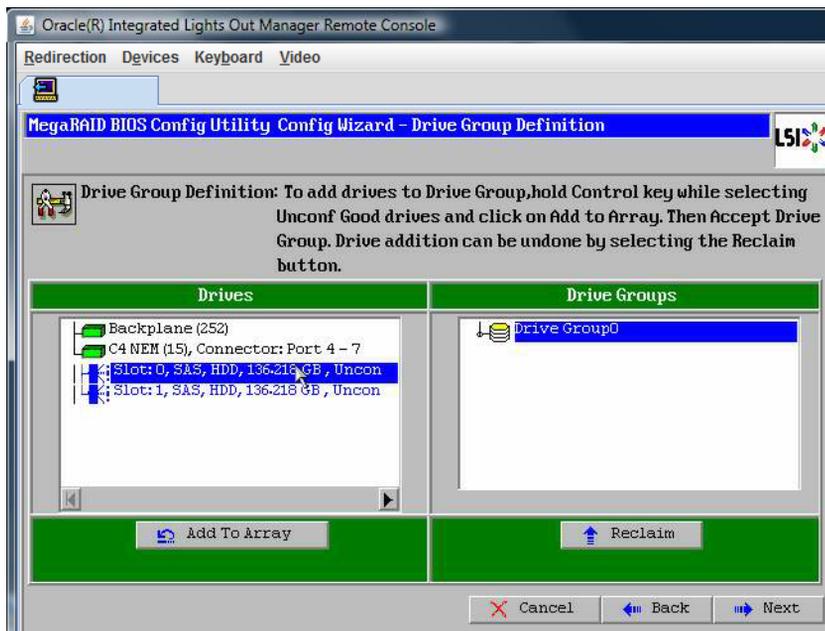
す。つまり、1つのドライブに障害が発生すると、システムが起動しなくなるということです。1つを除き、すべてのドライブを取り外す必要があります。または、「Manual Configuration」を選択して、1つのハードドライブだけを使用して仮想ドライブを作成することもできます。



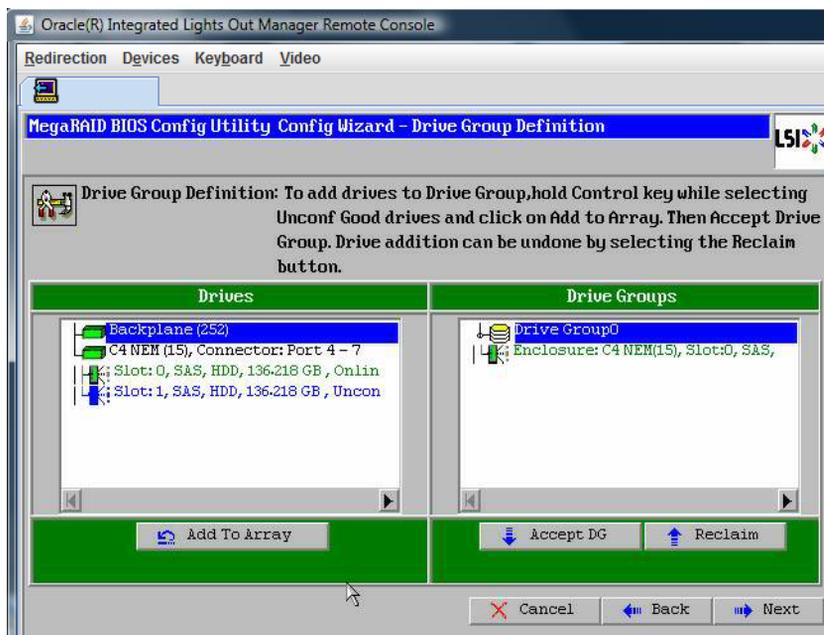
- 12 確認ウィンドウが表示されたら、「Yes」をクリックします。



- 13 「MegaRAID BIOS Config Utility Config Wizard – Drive Group Definition」画面に、システム内のドライブとドライブグループが表示されます。目的のドライブを選択して、「Add To Array」をクリックします。

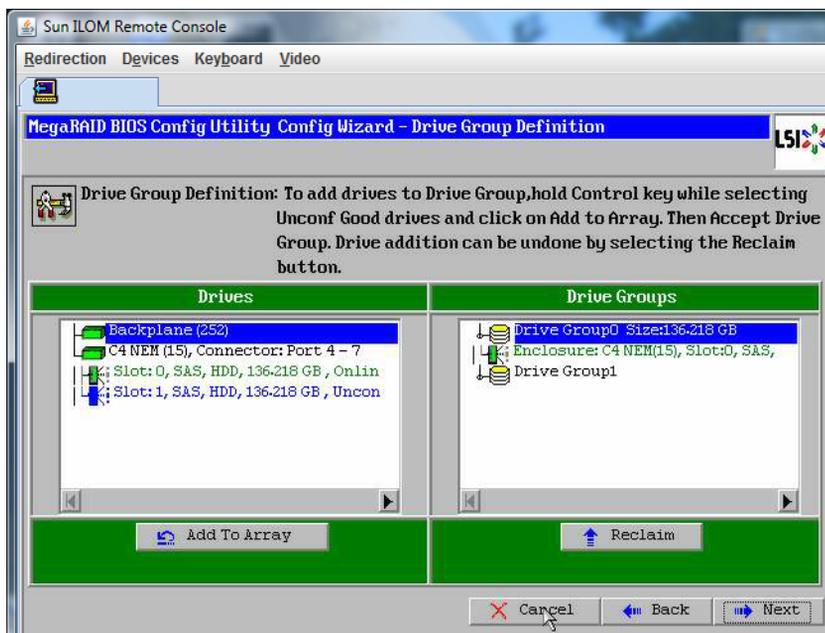


- 14 「Accept DG」をクリックしてドライブグループを作成します。  
Drive Group0が表示されます。

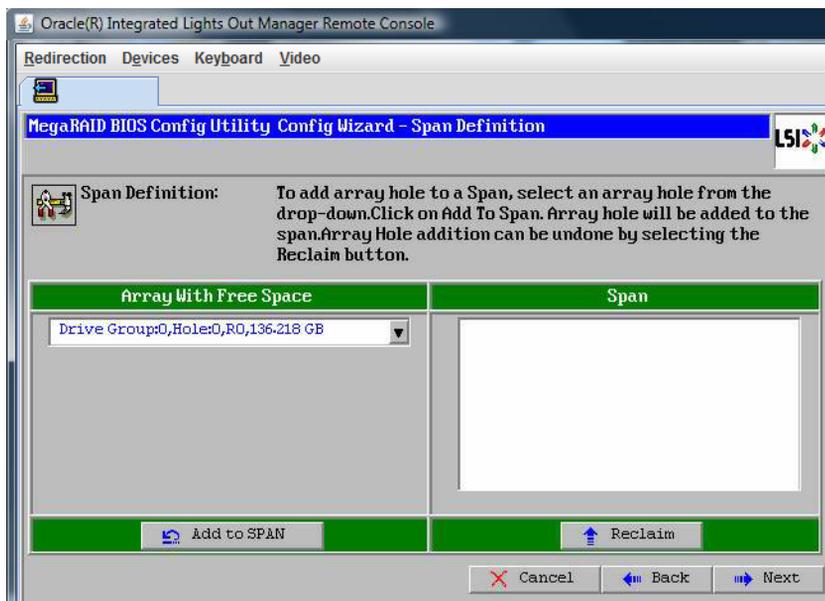


- 15 「次へ」をクリックします。

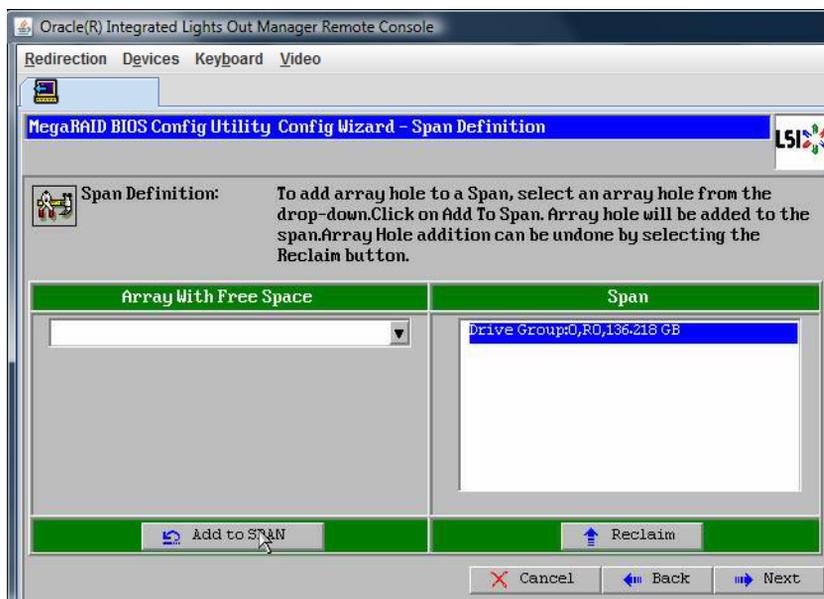
注- ドライブグループの選択は、「Reclaim」ボタンをクリックして取り消すことができます。



- 16 ドライブグループが「Span Definition」ウィンドウに表示されます。「Add to SPAN」をクリックします。

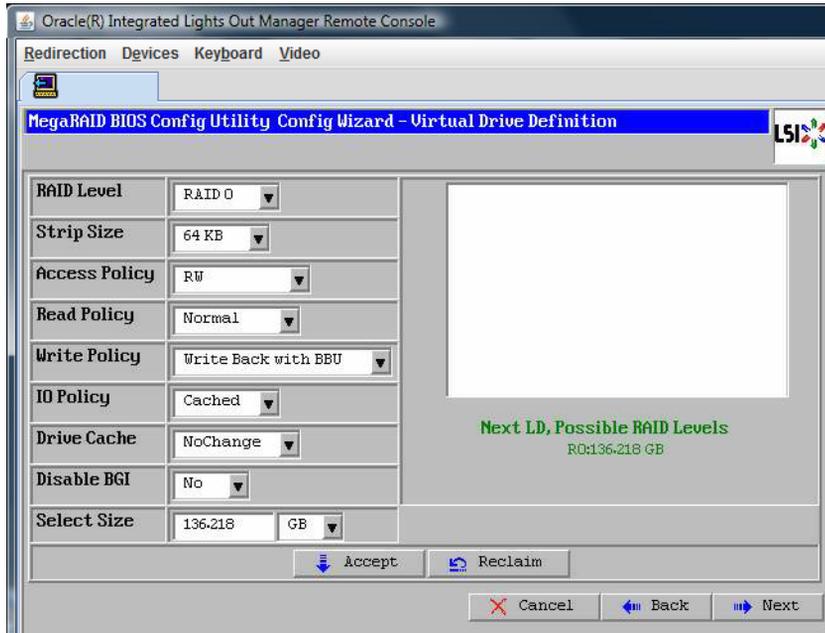


- 17 ドライブグループが「Span」に表示されます。「次へ」をクリックします。

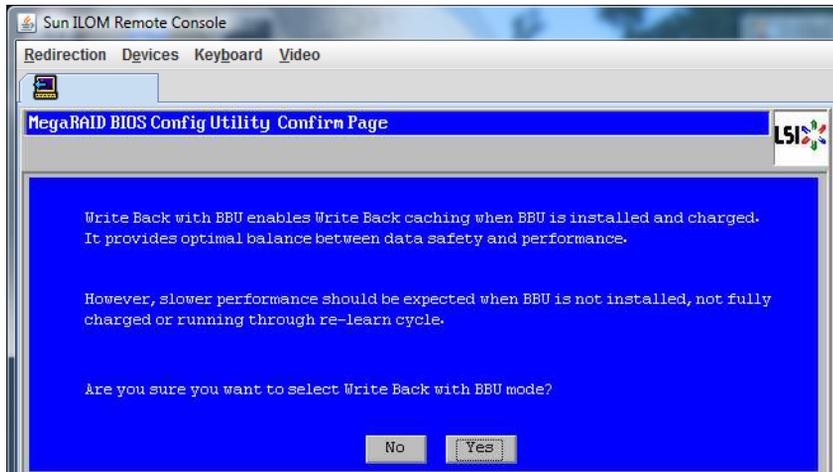


- 18 「Virtual Drive Definition」画面が表示されます。仮想ドライブのRAIDレベルと設定値を設定して、「Accept」をクリックします。

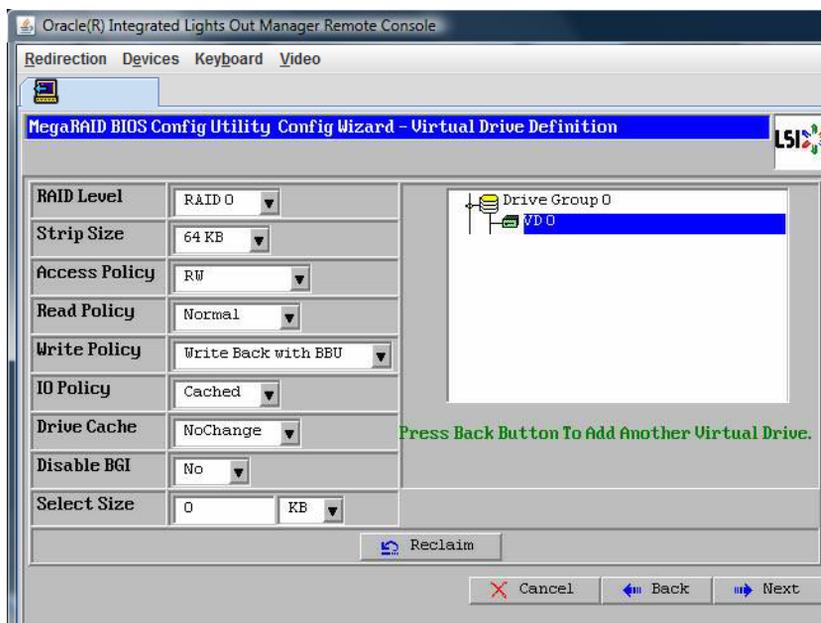
RAIDの設定については、サーバーのディスク管理マニュアルを参照してください。



- 19 「Write Back with BBU mode」を確認するプロンプトが表示されたら、「Yes」をクリックします。

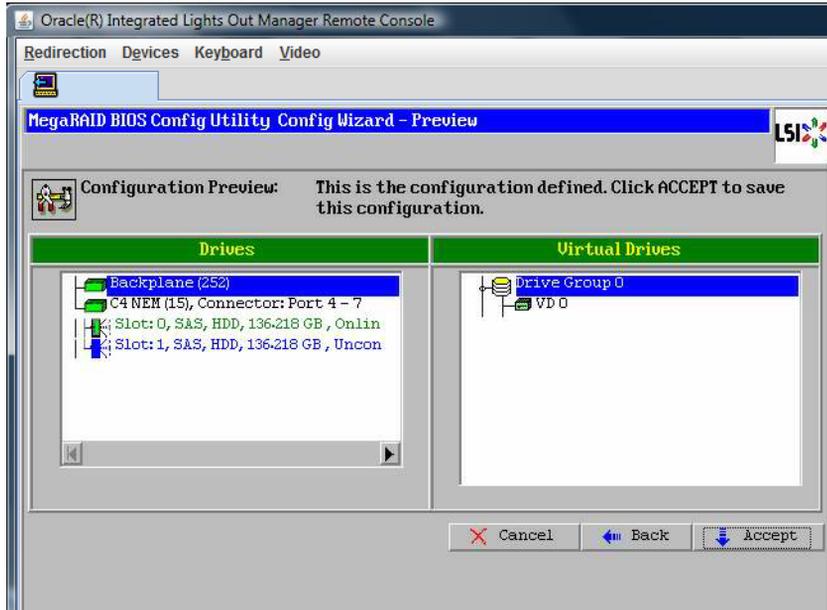


- 20 「Config Wizard」 ウィンドウで、「Next」をクリックします。

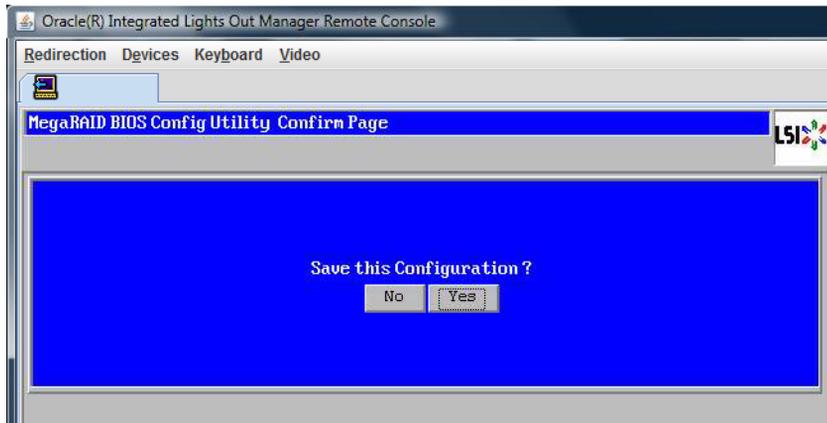


- 21 「Preview」画面が表示されます。仮想ドライブに**Drive Group 0**が含まれていることがわかります。

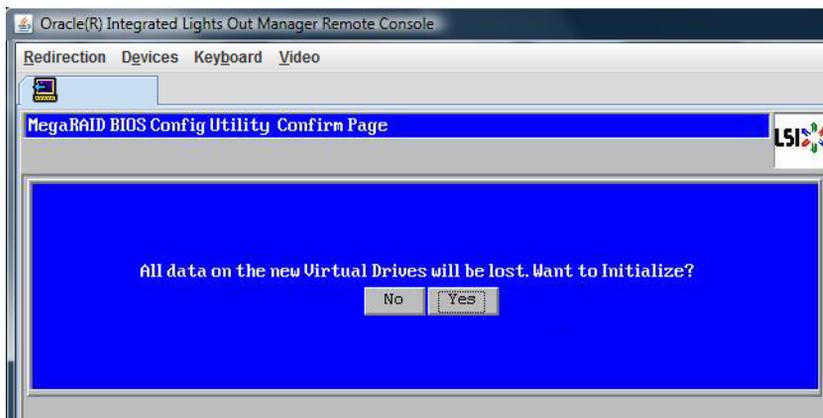
この図は、「Manual Configuration」オプションを使用した単一の仮想ドライブを示しています。



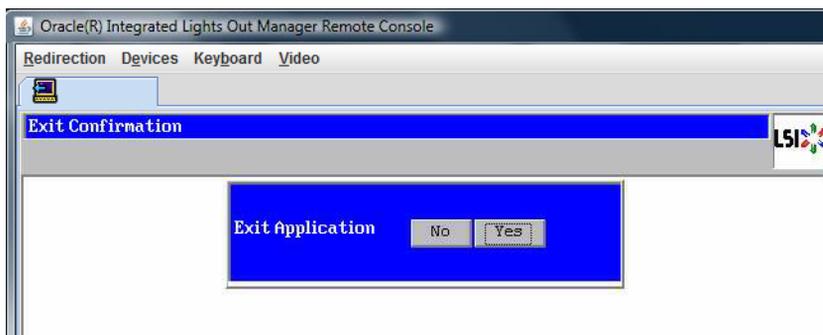
- 22 設定を保存します。



- 23 プロンプトに対して「Yes」をクリックします。仮想ドライブのすべてのデータが削除されます。初期化するかどうかを指定します。



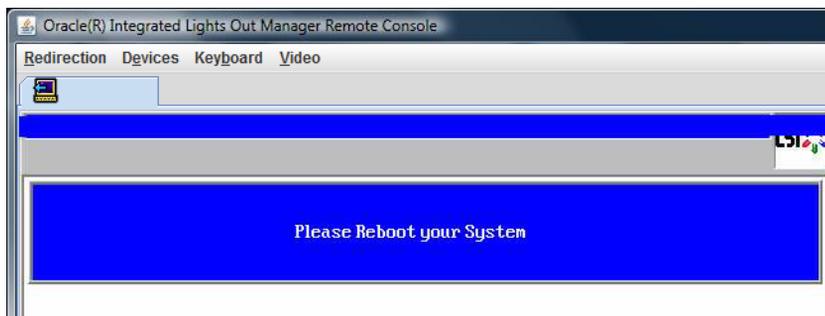
- 24 「Yes」をクリックして終了します。



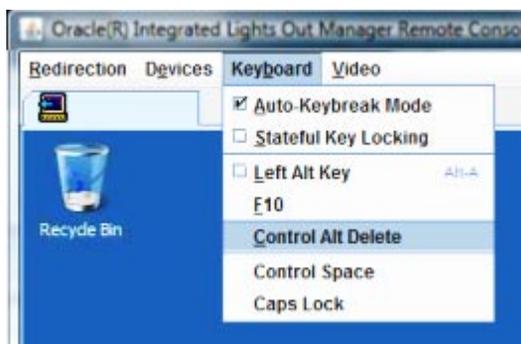
- 25 「Please Reboot Your System」と表示されたら、Alt キーを押しながら B キーを押して、キーボードプルダウンメニューを表示させます。



注意 - この手順を実行しない場合は、次の手順で「Control Alt Delete」を選択したときにローカルマシンが再起動されます。



- 26 矢印キーを使用してメニュー内の「Control Alt Delete」を選択し、リモートシステムを再起動します。Enter を押します。

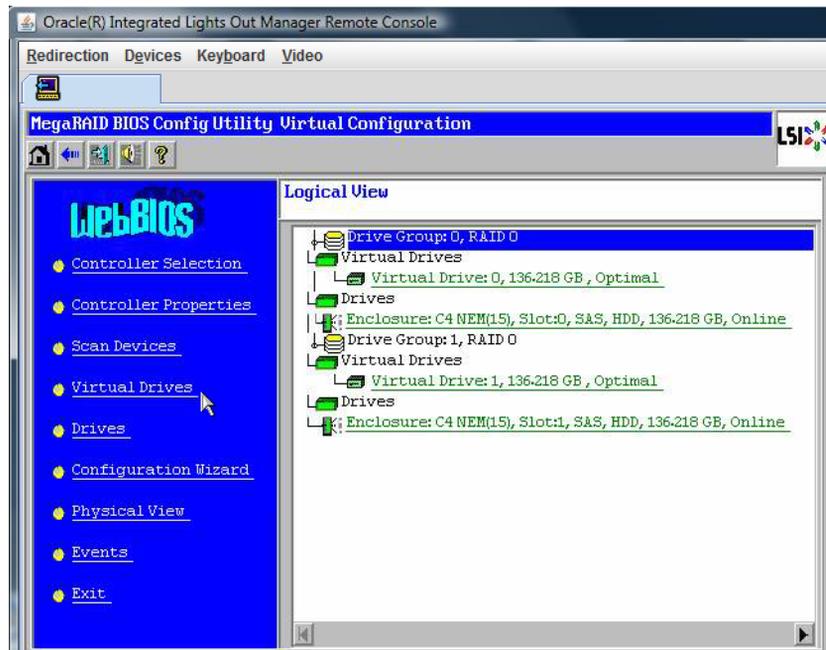


- 27 元の画面に戻り、マウスモードを「Absolute」に設定します。
- 「Remote Control」画面で「KVMS」タブを選択します。
  - 「Mouse Mode」で「Absolute」を選択します。
  - 「Save (保存)」をクリックします。

## ▼ ブートドライブを設定する方法

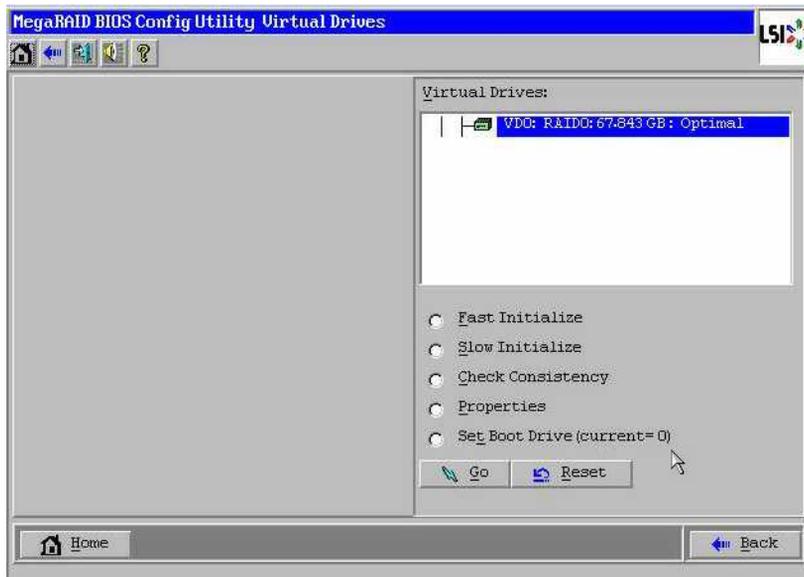
作成した仮想ドライブにオペレーティングシステムをインストールする場合は、ドライブをブートドライブとして設定する必要があります。

- 1 「Configuration Wizard」画面で「Virtual Drives」を選択します。



「MegaRAID BIOS Config Utility Virtual Drives Configuration」画面が表示されます。

- 2 オプションの1つとして「Set\_Boot Drive (current=none)」が表示されているかどうかを確認します。  
「Set\_Boot Drive (current=none)」オプションが表示されている場合は、ブートドライブが設定されていません。



- 3 「Set\_Boot Drive (current=none)」をオンにして、「Go」をクリックします。

# Windows Server 2008 のインストール

---

この節では、47 ページの「Windows Server 2008 のインストール」の配布メディアを使用して Windows Server 2008 R2 オペレーティングシステムをサーバーにインストールする方法を説明します。

---

注-サーバーのブートディスクに Oracle Solaris オペレーティングシステムがあらかじめインストールされている場合、Windows のインストールによりブートディスクがフォーマットされ、既存のデータがすべて消去されます。

---

この節では、次の項目について説明します。

[47 ページの「Windows Server 2008 のインストール方法」](#)

## ▼ Windows Server 2008 のインストール方法

始める前に オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、次の要件が満たされていることを必ず確認してください。

- RAID1 (ミラー化) のためにブートディスクを設定する場合、Windows オペレーティングシステムをインストールする前に、LSI Logic 統合 RAID コントローラの設定ユーティリティーを使用する必要があります。このユーティリティーにアクセスするには、サーバー起動時にプロンプトが表示された際に Ctrl+C キーを押します。詳細は、『Sun LSI 106x RAID User's Guide (Sun LSI 106x RAID ユーザーズガイド)』を参照してください。
- 選択した Windows メディアの取得方法については、次に示す要件の表を参照してください。

---

方法	必要な操作または項目
<b>Windows</b> ローカル	プロンプトが表示されたら、接続された物理 CD/DVD-ROM ドライブに Microsoft Windows Server 2008 R2 のインストールメディアを挿入します。
<b>Windows</b> リモート	JavaRConsole システムの CD/DVD-ROM ドライブに Microsoft Windows Server 2008 R2 のインストールメディアを挿入します。JavaRConsole の「Devices」メニューから「CD-ROM」を選択済みであることを確認してください。

---

---

方法	必要な操作または項目
Windows イメージ	JavaRConsole システムから Windows Server 2008 R2 インストール ISO イメージを使用できるようにします。JavaRConsole の「Devices」メニューから「CD-ROM Image」を選択済みであることを確認してください。

---

- 1 サーバーの電源を切つてすぐに入れ直します。  
Windows リモートまたは Windows イメージを使用する場合、ILOM からこれを行うことができます。  
BIOS POST プロセスが開始されます。
- 2 BIOS POST 画面に **Press F8 for BBS POPUP** プロンプトが表示されたら **F8** を押します。  
BBS POPUP メニューで起動デバイスを選択できます。

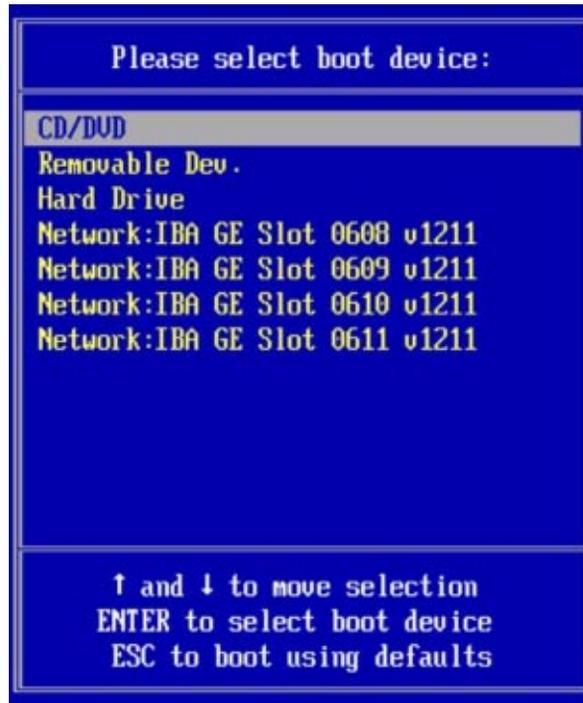
---

注 - BBS POPUP メニューなどの BIOS POST メッセージはすぐに消えてしまうため、見逃すことがあります。そのような場合は、サーバーの電源を入れ直し、起動中に BBS POPUP メニュー (手順 3 を参照) が表示されるまで F8 キーを押します。

---

```
Initializing USB Controllers .. Done.  
Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)  
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)  
Press F12 to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)
```

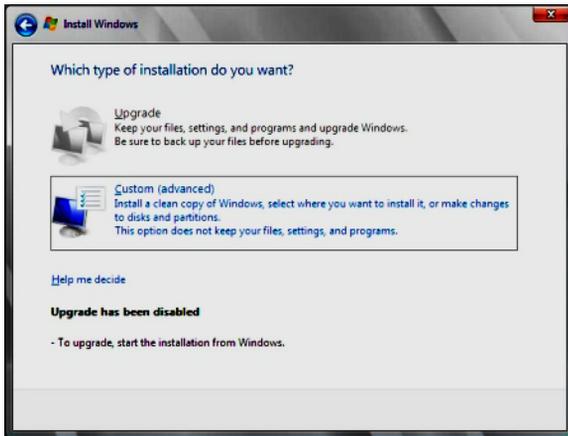
- BIOS POST プロセスが完了すると、「**Boot Device (起動デバイス)**」メニューが表示されます。インストール方法として **Windows ローカル** を選択した場合は、ここで、接続された **DVD ドライブ** に **Windows メディア DVD** を挿入します。



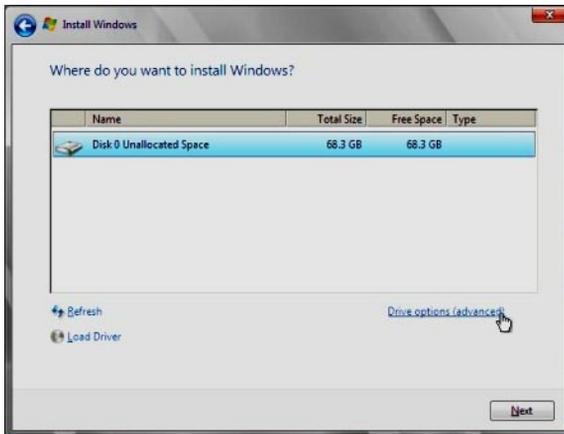
- 次のいずれかの手順を実行します。
  - Windows ローカル** を使用する場合、「**Boot Device (起動デバイス)**」メニューから **CD/DVD** を選択して **Enter** キーを押します。
  - Windows リモート** または **Windows イメージ** を使用する場合、「**Boot Device (起動デバイス)**」メニューから **仮想 CD/DVD** を選択して **Enter** キーを押します。  
「Press any key to boot from CD (CD からブートするにはいずれかのキーを押します)」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーをすばやく押します。

Windows インストールウィザードが起動します。

- 5 インストールウィザードの指示に従って進み、「Installation Type (インストールの種類)」ページが表示されたら、「Custom (advanced) (カスタム (詳細))」をクリックします。



- 6 「Where to Install Windows (Windows のインストール場所の選択)」画面で、次のいずれかの操作を実行します。

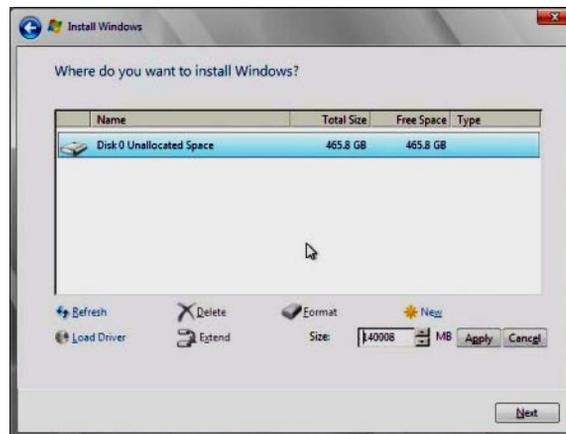


注 - Windows Server 2008 SP2 の場合、外部ストレージドライバはインストールされません。ドライバは、接続された CD/DVD または USB フラッシュドライブからアクセス可能である必要があります。ドライバにアクセスできない場合、前の図に示すようにディスクは表示されません。ドライバをブート WIM に追加する方法については、71 ページの「ブート WIM へのデバイスドライバの追加 (Windows Server 2008 SP2 のみ)」を参照してください。



注意-既存のパーティションをフォーマットまたは再パーティション化すると、パーティション上のすべてのデータが失われます。

- Windows のデフォルトのパーティション設定を選択するには、「Next (次へ)」をクリックします。手順 8 に飛びます。
  - Windows のデフォルトのパーティション設定を上書きするには、「Driver Options (advanced) (ドライブオプション (詳細))」をクリックして、次の手順の「Advanced Driver Options (ドライバの詳細オプション)」画面に進みます。
- 7 「Advanced Driver Options (ドライバの詳細オプション)」画面で、次の操作を実行します。
- a. 「Delete (削除)」をクリックして既存のパーティションを削除します。
  - b. 「New (新規)」をクリックして新しいパーティションを作成します。
  - c. 必要に応じてサイズ設定を変更し、「Apply (適用)」をクリックします。
  - d. 「次へ」をクリックします。



Windows のインストールが開始されます。インストールプロセス中、サーバーは数回再起動します。

- 8 Windows のインストールが完了すると、Windows が起動され、ユーザーパスワードの変更を要求するプロンプトが表示されます。「OK」をクリックして、初期ユーザーログインアカウントを設定します。

---

注 - Windows Server 2008 R2 では、ユーザーアカウントに対してパスワードが強制的に適用されます。パスワードの規格には、長さ、複雑さ、および履歴に関する制限が含まれています。詳細は、アカウント作成画面にあるアクセシビリティのリンクをクリックしてください。

---

初期アカウントを作成すると、Windows Server 2008 のデスクトップが表示されます。Windows Server 2008 R2 のインターフェースは新しくなりました。変更内容については、Microsoft ドキュメントを確認してください。

参照 55 ページの「必須ドライバの更新と追加ソフトウェアのインストール」。

## ▼ PXE を使用した Windows Server 2008 のインストール方法

次の手順は、Windows Server 2008 SP2 および R2 に適用されます。

- 1 次の方法のいずれかを使用して、サーバーをリセットするか電源を入れ直します。
  - ILOM Web インタフェースで、「Remote Power Control」タブの「Reset」を選択します。
  - ローカルサーバーで、フロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押してサーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押して電源を入れます。
  - ILOM CLI で、**reset /SYS** と入力します。BIOS 画面が表示されます。

---

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

---

- 2 **F8** キーを押して、一時起動デバイスを指定します。「**Please Select Boot Device (起動デバイスの選択)**」メニューが表示されます。
- 3 「**Please Select Boot Device (起動デバイスの選択)**」メニューで、適切な PXE インストール起動デバイスを選択し、**Enter** キーを押します。

---

注 - PXE インストール起動デバイスは、ネットワークインストールサーバーと通信するように設定されている物理ネットワークポートです。「**Boot Agent (ブートエージェント)**」画面が表示されます。

---

- 4 「**Boot Agent (ブートエージェント)**」画面で、**F12** キーを押してネットワークサービス起動を選択します。

- 5 通常の Windows Server 2008 SP2 または R2 WDS ネットワークインストールを続行します。  
詳細は、Microsoft の Windows 展開サービスに関する製品ドキュメントを参照してください。
- 6 インストールが完了したら、必要に応じてインストール後の作業を実行します。

参照 [76 ページの「Tools and Drivers DVD の ISO イメージのダウンロード」](#) .



# 必須ドライバの更新と追加ソフトウェアのインストール

---

Sunによりサポートされている全機能セットを確実にサーバーにインストールするには、ドライバと追加ソフトウェアをダウンロードする必要があります。このセクションでは、次の項目について説明します。

- 55 ページの「必須デバイスドライバのインストール」
- 57 ページの「追加ソフトウェアのインストール」
- 59 ページの「MegaRAID Storage Manager を使用した RAID の管理」
- 60 ページの「IPMItool」
- 60 ページの「Trusted Platform Module のサポートの設定」
- 61 ページの「Intel NIC チーミングの設定」

この節の手順は、次の作業が完了していることを前提としています。

- Microsoft Windows Server オペレーティングシステムがインストール済みである。
- 21 ページの「サーバーソフトウェアのダウンロード方法」の説明に従って、ダウンロードサイトから Windows.zip をダウンロードし、アクセス可能な場所に InstallPack\_x\_x\_x.exe を展開済みであるか、サーバーの最新の Tools and Drivers CD/DVD を入手済みである。

---

注 -\_x\_x\_x\_の数字は、パッケージのバージョンを表します (例: InstallPack\_1\_1\_4.exe)。

---

## 必須デバイスドライバのインストール

この節では、必須デバイスドライバと追加のサーバーコンポーネントソフトウェアにより Windows インストールを更新する方法を説明します。

Tools and Drivers DVD には、サーバー固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールするためのインストールウィザードが用意されています。サーバー固有のデバイスドライバは、サーバー上のハードウェアデバイスをサポートするために提供されています。

56 ページの「サーバー固有デバイスドライバのインストール方法」を参照してください。

## ▼ サーバー固有デバイスドライバのインストール方法

- 1 **Tools and Drivers DVD** をローカルまたはリモートの **USB DVD** ドライブに挿入して、次のいずれかを実行します。
  - **DVD** が自動的に起動した場合は、「**Install Drivers and Supplement Software** (ドライバと追加ソフトウェアのインストール)」をクリックします。
  - **DVD** が自動的に起動しない場合は、該当の **InstallPack** ファイル (**InstallPack\_1\_0\_1.exe** など) が格納された次のいずれかのフォルダに移動して、ファイルをダブルクリックします。  
`DVDname\Windows\W2K8\Packages`  
`DVDname\Windows\W2K8R2\Packages`
- 2 「**Install Pack** (インストールパック)」ダイアログボックスで、「**Next** (次へ)」をクリックして、デフォルトのインストール可能な項目を受け入れます。

---

注-最新バージョンのドライバを確実にインストールするために、デフォルトのインストール可能な項目を常に受け入れるようにしてください。

---

インストールパックの注意ダイアログボックスが表示されます。

- 3 インストールパックの注意ダイアログボックスに表示されたメッセージを読み、「**Next** (次へ)」をクリックします。  
「Sun Fire インストールウィザードによるこそ (Welcome to the Sun Fire Installation Wizard)」が表示されます。
- 4 「**Welcome to the Sun Fire Installation Wizard** (Sun Fire インストールウィザードによるこそ)」ダイアログボックスで、「**Next** (次へ)」をクリックします。  
「エンドユーザー使用許諾契約書 (End User License Agreement)」ページが表示されます。
- 5 「**End User License Agreement** (エンドユーザー使用許諾契約書)」画面で、「**I Accept This Agreement** (この契約書を承諾)」を選択してから、「**Next** (次へ)」をクリックします。  
プラットフォーム固有のドライバがインストールされます。緑のチェックマークは、各ドライバが正常にインストールされたことを表します。
- 6 「**Driver Installation Pack** (ドライバインストールパック)」画面で「**Finish** (完了)」をクリックします。  
「**System Settings Change** (システム設定の変更)」画面が表示されます。

注 - 追加ソフトウェアのインストールを行う場合(強く推奨)、この時点ではシステムを再起動しないでください。追加ソフトウェアのインストール後に、システムの再起動を求めるプロンプトが表示されます。

## 7 追加ソフトウェアをインストールするかどうかを指定します。

次のいずれかを選択します。

- No (いいえ) - 前の手順でデフォルトのインストール可能な項目の設定を受け入れた場合、「No (いいえ)」をクリックして57ページの「追加ソフトウェアのインストール」に進みます。
- Yes (はい) - 追加ソフトウェアをインストールしない場合は、「Yes (はい)」をクリックしてコンピュータを再起動します。

参照 57ページの「追加ソフトウェアのインストール」。

# 追加ソフトウェアのインストール

Sun Fire サーバーでは、追加ソフトウェアコンポーネントを使用できます。インストールのオプションは以下の2つです。

- Typical (通常) - 使用しているサーバーに適用可能なすべての追加ソフトウェアをインストールします。
- Custom (カスタム) - 選択した追加ソフトウェアのみをインストールします。

次の表に、サーバーで使用可能なオプションの追加ソフトウェアコンポーネントを示します。

使用可能な追加ソフトウェアコンポーネント	LSI統合RAIDコントローラ搭載サーバー	Intel統合ディスクコントローラ搭載サーバー
LSI MegaRAID Storage Manager。SAS 内蔵 RAID ホストバスアダプタで RAID を設定、監視、および維持管理できます。	Typical (通常)	適用不可
IPMItool。このコマンド行ユーティリティは、センサーデータリポジトリ (SDR) を読み取って、センサーの値、システムイベントログ (SEL)、現場交換可能ユニット (FRU) インベントリ情報を表示したり、LAN 設定パラメータを取得および設定したり、サービスプロセッサとも呼ばれる BMC によりシャーシの電源制御処理を実行したりします。	Typical (通常)	Typical (通常)

使用可能な追加ソフトウェアコンポーネント	LSI 統合 RAID コントローラ搭載サーバー	Intel 統合ディスクコントローラ搭載サーバー
Intel NIC チーミング。サーバー上のネットワークインタフェースを、仮想インタフェースと呼ばれる物理ポートのチームにグループ化できます。この機能には、耐障害性、負荷分散、リンク集積体、および仮想 LAN (VLAN) のタグ付けが含まれます。	Typical (通常)	Typical (通常)

関連項目:

[58 ページの「追加ソフトウェアのインストール方法」](#)

## ▼ 追加ソフトウェアのインストール方法

始める前に 追加ソフトウェアをすでにインストールしている場合には、インストールを再度実行しても、追加ソフトウェアが必ずしも再インストールされるわけではありません。削除される場合があります。追加ソフトウェアのインストール中には、適切なインストール結果が得られるように、表示される画面を慎重に確認してください。

### 1 追加ソフトウェアをインストールするかどうかを指定します。

次のいずれかを選択します。

- Do Not Install Supplemental Software (追加ソフトウェアをインストールしない) - [56 ページの「サーバー固有デバイスドライバのインストール方法」](#)の手順を実行する際に、追加ソフトウェアをインストールしないことを選択した場合、その手順を確認してもう一度実行し、ここでは**手順 2**のデフォルト設定(デフォルトでは、追加ソフトウェアをインストールする)を受け入れ、**手順 7**で「No (いいえ)」を選択します。

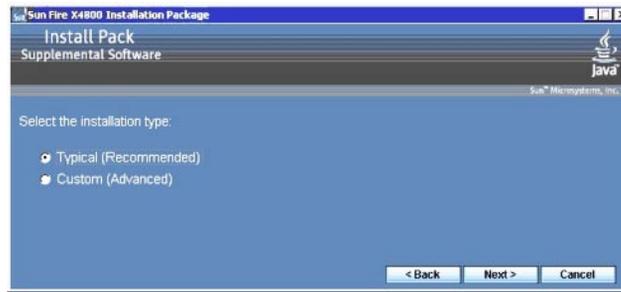
最新バージョンのドライバを確実にインストールするために、デフォルトのインストール可能な項目を常に受け入れるようにしてください。

- Install Supplemental Software (追加ソフトウェアをインストールする) - [56 ページの「サーバー固有デバイスドライバのインストール方法」](#)の**手順 2**で、サーバーインストールパッケージのダイアログボックスから追加ソフトウェアをインストールすることを選択し、**手順 7**で「No (いいえ)」(コンピュータを再起動しない)を選択した場合、次の「Install Pack Supplemental Software (インストールパックの追加ソフトウェア)」ダイアログボックスが表示されます。

### 2 「Typical (通常)」または「Custom (カスタム)」を選択します。

「Install Pack Supplemental Software (インストールパックの追加ソフトウェア)」ダイアログボックスで、「Next (次へ)」をクリックして「Typical (通常)」設定を受け入れるか、「Custom (カスタム)」を選択してインストールオプションを選択します。[表 2](#)の追加ソフトウェアに関する説明を参照してください。

コンポーネントインストールウィザードの指示に従って、選択した追加ソフトウェアコンポーネントを順にインストールします。



- 3 追加ソフトウェアがインストールされたら、「Finish (完了)」をクリックします。
- 4 **System Setting Change** (システム設定の変更) ダイアログボックスで「Yes (はい)」をクリックして、システムを再起動します。

Sun Server インストールパッケージソフトウェアを Tools and Drivers DVD から実行した場合は、ここで DVD をシステムから取り出します。

参照 59 ページの「MegaRAID Storage Manager を使用した RAID の管理」。

## MegaRAID Storage Manager を使用した RAID の管理

MSM プログラムでは、システム上の LSI Logic 統合 RAID コントローラ、物理ディスクドライブ、仮想ディスクドライブを設定できます。MSM プログラムの設定ウィザードを使用すると、ディスクグループや仮想ディスクドライブの作成プロセスが単純化され、ストレージ構成の作成が簡単になります。

MSM は、オペレーティングシステム (OS) の対応するライブラリおよびドライバと連動して、x64 サーバーに接続されたストレージ構成を設定、監視、および管理します。MSM インタフェースでは、デバイスのステータスがアイコン形式で表示されます。これらのアイコンは、システム上のコントローラ、仮想ディスクドライブ、物理ディスクドライブを表します。画面上のデバイスアイコンの横に表示される特別なアイコンは、早急な対応が必要なディスク障害などのイベントを通知します。システムのエラーやイベントは、イベントログファイルに記録され、画面に表示されます。

MSM の使用方法については、次の製品ドキュメント Web サイトにある『Sun LSI 106x RAID User's Guide (Sun LSI 106x RAID ユーザーズガイド)』を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/coll//sf-hba-lsi>

関連項目:

60 ページの「IPMItool」

## IPMItool

コマンド行ユーティリティである IPMItool は、センサーデータリポジトリ (SDR) を読み取って、センサーの値、システムイベントログ (SEL)、現場交換可能ユニット (FRU) インベントリ情報を表示したり、LAN 設定パラメータを取得および設定したり、サーバーのサービスプロセッサによりシャーシの電源制御処理を実行したりします。IPMItool は追加ソフトウェアです。55 ページの「必須デバイスドライバのインストール」で説明しているとおり、サーバーの Tools and Drivers CD/DVD または InstallPack\_x\_x\_x.exe 実行可能ファイルを使用してインストールできます。

IPMItool をインストールすると、サーバーのサービスプロセッサや別の Sun 製サーバーのサービスプロセッサに、次の方法でアクセスできるようになります。

- サーバーの ILOM (Integrated Lights Out Manager) インタフェースを使用して。ILOM の使用方法の詳細については、ご使用のサーバーの ILOM ドキュメントを参照してください。
- Windows オペレーティングシステムからコマンドプロンプトを使用して。Windows 用 IPMItool は、Microsoft の IPMI システム管理ドライバと連携して使用します。このドライバは、Windows Server 2008 R2 にバンドルされており、OS インストール時にインストールされます。

IPMItool の標準コマンドについては、次を参照してください。

- <http://ipmitool.sourceforge.net/manpage.html>
- 『Sun Server CLI ツールおよび IPMItool ユーザーズガイド』

関連項目:

60 ページの「Trusted Platform Module のサポートの設定」

## Trusted Platform Module のサポートの設定

Trusted Platform Module (TPM) はオンボードのハードウェアコンポーネントで、主要な処理やセキュリティ上重要なその他の作業について保護スペースを提供し、セキュリティを強化することを目的としています。TPM では、ハードウェアとソフトウェアの両方を使用して、もっとも脆弱な状態にある暗号および署名キーを保護します。

Windows Server 2008 で提供される TPM 機能セットを使用するには、この機能をサポートするようにサーバーを設定する必要があります。手順については、サーバーのドキュメントに記載された TPM に関する説明を参照してください。

この機能の実装の詳細は、Microsoft が提供する Windows Trusted Platform Module Management のドキュメントを参照してください。

関連項目:

61 ページの「Intel NIC チーミングの設定」

## Intel NIC チーミングの設定

現在の環境で NIC チーミングを設定する方法については、Advanced Networking Services (ANS) に関する Intel Connectivity の Web ページ (<http://www.intel.com/support/network/sb/CS-009747.htm>) を参照してください。

また、使用しているサーバーのネットワークアダプタ向けの『Intel Network Connections User Guides (Intel Network Connections ユーザーズガイド)』一式を <http://www.intel.com/support/network/sb/cs-009715.htm> からダウンロードできます。

関連項目:

63 ページの「WDS 用の WIM イメージへのデバイスドライバの組み込み」



# WDS 用の WIM イメージへのデバイスドライバの組み込み

---

この節は、Windows Server 2008 R2 または Windows Server 2008 SP2 デバイスドライバを Windows Imaging Format (WIM) ファイルに組み込む必要がある、上級のシステム管理者を対象としています。

ここでは、システム管理者が Microsoft の Windows 展開サービス (WDS) を使用して、ネットワーク経由で Windows Server 2008 (SP2 または R2) のインストールを展開することを前提とします。

---

注 - この節は、WDS または Microsoft の Windows システムイメージマネージャー (WSIM) のチュートリアルとなるものではありません。WDS や WSIM については、Microsoft の WDS および WSIM のドキュメントを参照してください。

---

この節のトピックは次のとおりです。

- [63 ページの「Tools and Drivers DVD 上のデバイスドライバの場所」](#)
- [64 ページの「WIM イメージに組み込むデバイスドライバ」](#)
- [65 ページの「デバイスドライバ WIM イメージの前提条件と作業概要」](#)
- [68 ページの「WIM イメージへのドライバの組み込み」](#)
- [76 ページの「Tools and Drivers DVD の ISO イメージのダウンロード」](#)

## Tools and Drivers DVD 上のデバイスドライバの場所

次の表に、Tools and Drivers DVD 上のデバイスドライバディレクトリの場所を示します。

---

注 - Tools and Drivers DVD をお持ちでない場合は、Tools and Driver DVD の ISO イメージをダウンロードできます。詳細は、[76 ページの「Tools and Drivers DVD の ISO イメージのダウンロード」](#) を参照してください。

---

表1 Tools and Drivers DVD 上のデバイスドライバの場所

推奨ドライバ	Tools and Driver DVD 上のディレクトリの場所
Intel ネットワークドライバ	Windows 2008 R2 の場合: windows\W2K8R2\drivers\NIC\intel  Windows 2008 SP2 の場合: windows\w2k8\drivers\NIC\intel
Aspeed ドライバ	Windows 2008 R2 の場合: windows\W2K8R2\drivers\display\ aspeed  Windows 2008 SP2 の場合: windows\w2k8\drivers\display\aspeed
<i>LSI MegRAID</i> ドライバ:	
Sun Storage 6 Gb/s SAS PCIe RAID HBA、SG-SAS6-R-INT-Z	windows/w2k8/drivers/64bit/hba/lsi/megaraid
Sun Storage 6 Gb/s SAS PCIe RAID HBA、SG-SAS6-R-EXT-Z	windows/w2k8/drivers/64bit/hba/lsi/megaraid
<i>LSI MPT2</i> ドライバ:	
Sun Storage 6 Gb/s SAS PCIe HBA、SG-SAS6-INT-Z	windows/w2k8/drivers/64bit/hba/lsi/m pt2
Sun Storage 6 Gb/s SAS PCIe HBA、SG-SAS6-EXT-Z	windows/w2k8/drivers/64bit/hba/lsi/m pt2
Intel ICH10 コントローラ	Windows 2008 R2 の場合: windows\W2K8R2\drivers\64bit\HBA\ intel  Windows 2008 SP2 の場合: windows\W2K8R2\drivers\64bit\HBA\ intel

関連項目:

[64 ページの「WIM イメージに組み込むデバイスドライバ」](#)

## WIM イメージに組み込むデバイスドライバ

次の表に、Windows Server 2008 (SP2 または R2) の WIM イメージに組み込むデバイスドライバを示します。

注 - 表に記載されているブート WIM イメージは、Windows Server 2008 SP2 のインストールの場合にのみ必要です。表に記載されているインストール WIM イメージは、Windows Server 2008 SP2 および Windows Server 2008 R2 のインストールの両方に必要です。

表2 WIM イメージに組み込むデバイスドライバ

組み込むデバイスドライバ	Windows Server 2008 SP2 および R2 - install.wim に追加	Windows Server 2008 SP2 - boot.wim に追加
Intel ネットワークドライバ	X	X
Aspeed グラフィックドライバ	X	
サーバーに取り付けられている SAS PCIe HBA オプション:		
Sun Storage 6 Gb/s SAS PCIe RAID HBA、SG-SAS6-R-INT-Z	X	X
Sun Storage 6 Gb/s SAS PCIe RAID HBA、SG-SAS6-R-EXT-Z	X	X
Sun Storage 6 Gb/s SAS PCIe HBA、SG-SAS6-INT	X	X
Sun Storage 6 Gb/s SAS PCIe HBA、SG-SAS6-EXT-Z	X	X
Intel ICH10 コントローラ	X	

関連項目:

65 ページの「デバイスドライバ WIM イメージの前提条件と作業概要」

## デバイスドライバ WIM イメージの前提条件と作業概要

Windows Server 2008 R2 または Windows Server 2008 SP2 のデバイスドライバ WIM イメージを作成する前に、指定の順序で次の作業を完了してください。

1. ネットワーク内のサーバーに Windows 展開サービス (WDS) をインストールおよび設定します。

詳細は、Microsoft の『Windows Deployment Services Step-by-Step Guide (Windows 展開サービスに関する手順ガイド)』をダウンロードできます。次のサイトで「WDS」を検索して『Windows Deployment Services Step-by-Step Guide (Windows 展開サービスに関する手順ガイド)』を入手してください。

<http://www.microsoft.com/downloads/en/default.aspx>

- Windows 自動インストールキット (AIK) をインストールします。Windows AIK には、WIM イメージをマウントおよび変更するアプリケーションと、XML 無人セットアップスクリプトを作成および変更するアプリケーションが含まれています。

Windows AIK をダウンロードするには、次のサイトにアクセスして WAIK を検索し、Windows Vista SP1 および Windows Server 2008 (Windows Server 2008 SP2) 用の自動インストールキット (AIK)、または Windows 7 (Windows Server 2008 R2) 用の Windows AIK を入手してください。

<http://www.microsoft.com/downloads/en/default.aspx>

- Tools and Driver DVD 上の Windows デバイスドライバを見つけます。  
63 ページの「Tools and Drivers DVD 上のデバイスドライバの場所」を参照してください。
- ネットワーク共有デバイスドライバリポジトリを作成します。  
たとえば、次のように入力します。

- Windows Server 2008 (SP2 または R2) のデバイスドライバを格納するデバイスドライバリポジトリを作成します。

Windows Server 2008 WDS インストール環境の場合は、デバイスドライバリポジトリが提供されていますが、変更可能です。Windows Server 2003 SP2 WDS インストール環境の場合は、デバイスドライバリポジトリは提供されていないので、手動で作成する必要があります。次の例は、新しいデバイスドライバリポジトリのディレクトリ構造をセットアップする方法を示したものです。

```
C:\unattend\drivers\{w2k8|w2k8r2}\catalogs\vendor\version
```

各エントリの内容は次のとおりです。

unattend	無人デバイスドライバストア。
drivers	デバイスドライバディレクトリの名前。
{W2K8 または W2K8R2}	Windows Server 2008 (SP2 または R2) デバイスドライバディレクトリの名前。
catalogs	Windows Server 2008 (SP2 または R2) のカタログファイルの名前。
vendor	デバイスドライバベンダーのディレクトリの名前。
version	デバイスドライババージョンのディレクトリの名前。

- デバイスドライバリポジトリ内のディレクトリ (フォルダ) は必ず共有し、ネットワークインストール中に Windows 展開サービス (Windows Deployment Service、WDS) にアクセスできるようにしてください。

たとえば、この節で参照されるデバイスドライバリポジトリフォルダとネットワーク共有は、次のように設定されます。

リポジトリフォルダ	ネットワーク共有
C:\Unattended\Drivers\W2K8	\\wds-server\W2K8-Drivers
C:\Unattended\Drivers\W2K8R2	\\wds-server\W2K8R2-Drivers

- Tools and Drivers DVD 上の Windows Server 2008 デバイスドライバを抽出して、デバイスドライバリポジトリに配置します。

63 ページの「Tools and Drivers DVD 上のデバイスドライバの場所」を参照してください。

注 - Tools and Drivers DVD をお持ちでない場合は、Tools and Driver DVD の ISO イメージをダウンロードできます。76 ページの「Tools and Drivers DVD の ISO イメージのダウンロード」を参照してください。

次の例では、SAS PCIe HBA ドライバ (バージョン番号例: 1.19.2.64) を Tools and Drivers DVD からデバイスドライバリポジトリにコピーした後のデバイスドライバリポジトリのディレクトリ構造を示しています。

Windows Server 2008 SP2	Tools and Drivers DVD	DVDDevice:\windows\W2K8R2\drivers\64bit\hba\lsi\mpt2s
	デバイスドライバリポジトリ	C:\unattend\drivers\W2K8\lsi\1.19.2.2.64
Windows Server 2008 R2	Tools and Drivers DVD	DVDDevice:\windows\W2K8R2\drivers\64bit\hba\lsi\mpt2
	デバイスドライバリポジトリ	C:\unattend\drivers\W2K8R2\lsi\1.19.2.64

5. Windows Server 2008 (SP2 または R2) 用の ImageUnattend.xml セットアップスクリプトを作成します。

詳細は、68 ページの「ImageUnattend.xml セットアップスクリプトの作成方法」を参照してください。

6. Windows Server 2008 SP2 (のみ) のインストールの場合、64 ページの「WIM イメージに組み込むデバイスドライバ」で説明されている必要な起動デバイスドライバを boot.wim に追加します。

デバイスドライバを boot.wim に追加する方法については、71 ページの「ブート WIM へのデバイスドライバの追加 (Windows Server 2008 SP2 のみ)」を参照してください。

7. ImageUnattend.xml セットアップスクリプトを Windows Server 2008 イメージにマッピングします。  
詳細は、74 ページの「Windows Server 2008 インストールイメージへの ImageUnattend.xml セットアップスクリプトのマッピング」を参照してください。
8. Windows Server 2008 SP2 および Windows Server 2008 R2 のインストールの場合、64 ページの「WIM イメージに組み込むデバイスドライバ」で説明されている必要なデバイスドライバを install.wim に追加します。

## WIM イメージへのドライバの組み込み

この節では、デバイスドライバを WIM イメージファイルに追加する手順を説明します。これらの手順は次に示す順序で実行してください。

1. 68 ページの「ImageUnattend.xml セットアップスクリプトの作成方法」
2. 71 ページの「ブート WIM へのデバイスドライバの追加 (Windows Server 2008 SP2 のみ)」
3. 74 ページの「Windows Server 2008 インストールイメージへの ImageUnattend.xml セットアップスクリプトのマッピング」

### インストールを開始する前に

この節の手順を実行する前に、65 ページの「デバイスドライバ WIM イメージの前提条件と作業概要」で説明されている前提条件がすべて満たされていることを確認してください。

### ▼ ImageUnattend.xml セットアップスクリプトの作成方法

次の手順に従って、Windows Server 2008 SP2 または R2 インストール用の ImageUnattend.xml セットアップスクリプトを作成します。生成されたセットアップスクリプトは、デバイスドライバリポジトリに保存されます。

---

注 - この手順では、ImageUnattend.xml セットアップスクリプトが、Windows Server 2008 (SP2 または R2) インストールイメージにマッピングされます。次に、このインストールイメージにより、Windows Server 2008 ネットワークインストール中に、指定したデバイスドライバがインストールされます。

---

1. Windows Server 2008 DVD メディアを、Windows 展開サービスをホストしているシステムの DVD リーダーに挿入します。
2. すべての Windows Server 2008 カタログファイルを、デバイスドライバリポジトリの Catalogs フォルダにコピーします。たとえば、次のようにコマンドを入力します。  
`copy DVDDrive:\source\*.clg C:\Unattend\Drivers\{WSK8|W28R2}\Catalogs`

- 3 **Windows** システムマネージャーアプリケーションを起動し、次の手順で新しい **ImageUnattend.xml** セットアップスクリプトを作成します。
  - a. 「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「**Microsoft Windows AIK**」 > 「**Windows** システムイメージマネージャー」の順にクリックします。
  - b. 「**Answer File** (応答ファイル)」ウィンドウで右クリックして「**New Answer File** (新しい応答ファイル)」を選択します。
  - c. 新しい **Windows** イメージをすぐに関開かどうかを尋ねるメッセージが表示された場合、「**No** (いいえ)」をクリックします。
- 4 インストールする **Windows Server 2008** のエディション (**Standard**、**Datacenter**、または **Enterprise**) と一致する **Windows Server 2008** カタログファイルを指定します。
  - a. 「**Windows Image** (**Windows** イメージ)」ウィンドウで右クリックして「**Select Windows Image** (**Windows** イメージの選択)」を選択します。
  - b. 「**File Type** (ファイルタイプ)」リストボックスでカタログファイル (\*.clg) を選択してから、「**Browse** (参照)」をクリックして、デバイスドライバリポジトリの **Catalogs** フォルダを指定します。

インストールする **Windows Server 2008** (SP2 または R2) のエディションと一致するカタログファイルを必ず選択してください。

たとえば、**Windows Server 2008 SP2 Datacenter** の場合は、次のように選択します。

```
C:\Unattend\Drivers\{W2K8|W2K8R2}\Catalogs\  
install_Windows_Server_2008_SERVERDATACENTER.clg
```
- 5 **2 offlineServicing** を渡すコンポーネントパッケージを指定します。
  - a. 「**Windows Image** (**Windows** イメージ)」ウィンドウで、**architecture\_Microsoft-Windows-PnPCustomizationNonWinPE\_version** をクリックして展開します。
  - b. **PathAndCredentials** を右クリックして、「**Add Setting to Pass 2 OfflineServicing** (**2 offlineServicing** を渡す設定を追加)」を選択します。
- 6 **Windows Server 2008** のインストール中にインストールするデバイスドライバごとに手順 5 を繰り返します。

**install.wim** ファイルに含めるデバイスドライバのリストについては、[68 ページ](#) の「**WIM イメージへのドライバの組み込み**」の表を参照してください。

- 7 インストールキーの値を指定します。
  - a. 「Answer File (応答ファイル)」ウィンドウで、2 **offlineServing**、**architecture\_Microsoft-Windows-PnPCustomizationsNonWinPE\_version** をクリックして展開します。
  - b. **PathAndCredentials** をクリックして展開し、シーケンスキー値とリポジトリの **UNC** デバイスドライバのパスを入力します。

たとえば、Sun Storage PCIe SAS RAID HBA オプション用のデバイスドライバを追加するには、次のように入力します。

**Key 1**

**Path** \\wds-server\W2K8-Drivers\Lsi\1.19.2.64
  - c. 各 **PathAndCredentials** コンポーネントの「**Credential (資格)**」セクションで、コンポーネントをクリックして展開し、**UNC** ドメイン、ログイン名、パスワード (必要な場合) を挿入することにより、リポジトリに保存されているデバイスドライバにアクセスできます。

たとえば、次のように入力します。

ドメイン	UNC_domain
パスワード	UNC_password
ユーザー名	UNC_username
  - d. **Windows Server 2008** のインストール中にインストールするデバイスドライバごとに、手順 7a から 7c までを繰り返します。
- 8 **Windows** システムイメージマネージャーアプリケーションを使用して、**ImageUnattend.xml** ファイルを検証します。

Windows システムイメージマネージャーアプリケーションで、「Tools (ツール)」メニューをクリックして「Validate Answer File (応答ファイルの検証)」を選択します。
- 9 **Windows** システムマネージャーアプリケーションを使用して、.xml セットアップスクリプトを **ImageUnattend.xml** として保存します。
  - a. **Windows** システムイメージマネージャーアプリケーションで、「File (ファイル)」メニューをクリックして「**Save Answer File as (名前を付けて応答ファイルを保存)**」を選択します。
  - b. .xml セットアップスクリプトを次の名前でデバイスドライバリポジトリに保存します。

c:\Unattend\Drivers\W2K8\Catalogs\ImageUnattend.xml

Windows システムイメージマネージャアプリケーションを終了します。

ImageUnattend.xml セットアップスクリプトの作成が完了しました。

次の手順 Windows Server 2008 R2 インストールの場合、74 ページの「Windows Server 2008 インストールイメージへの ImageUnattend.xml セットアップスクリプトのマッピング」に進みます。

Windows Server 2008 SP2 インストールの場合、71 ページの「ブート WIM へのデバイスドライバの追加 (Windows Server 2008 SP2 のみ)」に進んだ後、ImageUnattend.xml セットアップスクリプトを install.wim イメージにマッピングします。

## ▼ ブート WIM へのデバイスドライバの追加 (Windows Server 2008 SP2 のみ)

Windows Server 2008 SP2 インストールの場合のみ、次の手順を実行して、適切な PCIe SAS HBA LSI デバイスドライバ (MegaRAID または MPT2) を boot.wim イメージに追加します。必須の PCIe SAS HBA デバイスドライバ (表 1 および表 2 を参照) が boot.wim イメージに追加されていない場合、Windows Server 2008 SP2 のインストールは失敗します。

---

注 - Windows Server 2008 R2 インストールを実行している場合は、この手順をスキップしてください。Windows Server 2008 R2 インストールの場合、起動時にデバイスドライバは必要ありません。

---

- 1 Windows Server 2008 SP2 DVD メディアを、Windows 展開サービスをホスティングしているシステムの DVD リーダーに挿入します。
- 2 次の手順を実行して、Windows 展開サービス管理ツールを起動し、Windows Server 2008 SP2 のブート WIM をインポートします。
  - a. 「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「Windows 展開サービス」の順に選択します。
  - b. 「Boot Images (ブートイメージ)」を右クリックして「Add a Boot Image (ブートイメージの追加)」を選択してから、「Browse (参照)」をクリックして Windows Server 2008 SP2 のブート WIM ファイルを指定します (例: DVDDrive:\sources\boot.wim)。
  - c. 「Open (開く)」をクリックし、「Next (次へ)」をクリックします。
- 3 Windows Server 2008 SP2 のブートイメージをインポートするには、「Next (次へ)」を 2 回クリックしてから、「Finish (完了)」をクリックします。

- 4 **Windows 展開サービス管理**を使用して、**Windows Server 2008 SP2**のブートWIMを無効にします。  
「Boot Images (ブートイメージ)」をクリックして展開し、「Microsoft Windows Server (Setup) x64 (Microsoft Windows Server (セットアップ) x64)」を右クリックして、「Disable (無効にする)」を選択します。
- 5 管理者として展開ツールコマンドプロンプトを起動し、実行します。  
たとえば、「スタート」>「すべてのプログラム」>「Microsoft Windows AIK」の順にクリックしてから、「Deployment Tools Command Prompt (展開ツールコマンドプロンプト)」を右クリックし、「Run as Administrator (管理者として実行)」を選択します。
- 6 展開ツールコマンドプロンプトで、次の手順を実行します。
  - a. **mkdir** コマンドを使用して、**Windows Server 2008 SP2**のブートWIMイメージをマウントする一時ディレクトリマウントポイントを作成します。  
たとえば、次のように入力します。  

```
mkdir C:\Mnt
```
  - b. **cd** コマンドを使用して、**Windows Server 2008 SP2**のブートWIMを格納しているフォルダに移動します。  
たとえば、次のように入力します。  

```
cd DVDDrive:\RemoteInstall\Boot\x64\images
```
  - c. **imagex** コマンドを使用して、読み取り/書き込み権限付きで**Windows Server 2008 SP2**のブートWIMを一時ディレクトリマウントポイントにマウントします。たとえば、次のようにコマンドを入力します。  

```
imagex /mountrw boot.wim 2 C:\Mnt
```
  - d. **cd** コマンドを使用して、**Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA オプション (SG-SAS-R-INT-Z または SG-SAS-R-EXT-Z)**用の**Windows Server 2008 SP2** デバイスドライバを格納しているデバイスドライバリポジトリに移動します。  
たとえば、**Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA オプション (SG-SAS-R-INT-Z または SG-SAS-R-EXT-Z)**用のLSI デバイスドライバを格納しているディレクトリに移動するには、次のように入力します。  

```
cd C:\Unattend\Drivers\W2K8\lsi\1.19.2.64
```

- e. **peimg** コマンドを使用して、**Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA オプション (SG-SAS-R-INT-Z または SG-SAS-R-EXT-Z)** 用の **LSI MegaRAID デバイスドライバ**を **Windows Server 2008 SP2** のブート WIM に追加します。
- たとえば、**Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA オプション (SG-SAS-R-INT-Z または SG-SAS-R-EXT-Z)** 用の **LSI MegaRAID デバイスドライバ**を追加するには、次のように入力します。

```
peimg /INF=* .inf C:\Mnt\Windows
```

- f. 次のブート WIM イメージに必要な追加のデバイスドライバ(表2を参照)ごとに、**imagex** コマンドと **peimg** コマンドを使用して手順を繰り返します。
- Sun Storage 6 Gb/s SAS PCIe HBA オプション (SG-SAS-INT-Z または SG-SAS-EXT-Z)
  - Intel ネットワークドライバ
- g. **imagex** コマンドを使用して、変更した **Windows Server 2008 SP2** のブート WIM をアンマウントおよびコミットします。
- たとえば、次のように入力します。

```
imagex /unmount/commit C:\Mnt
```

- 7 **Windows Server 2008 SP2** のブート WIM イメージを有効にするには、次の手順を実行します。
- a. **Windows 展開サービス管理ツール**を起動します。  
「スタート」>「すべてのプログラム」>「Windows 展開サービス」
  - b. **Windows 展開サービス (WDS) 管理ツール**で、「**Boot Images (ブートイメージ)**」をクリックして展開します。
  - c. 「**Microsoft Windows Server (Setup) x64 (Microsoft Windows Server (セットアップ) x64)**」を右クリックして、「**Enable (有効にする)**」を選択します。
- デバイスドライバを **boot.wim** イメージに含めるための変更作業が完了しました。
- 8 展開ツールコマンドプロンプトと **WDS** 管理ツールを終了します。

次の手順 [74 ページの「Windows Server 2008 インストールイメージへの ImageUnattend.xml セットアップスクリプトのマッピング」](#)

## ▼ Windows Server 2008 インストールイメージへの ImageUnattend.xml セットアップスクリプトのマッピング

次の手順に従って、Oracle サーバー用の Windows Server 2008 (SP2 または R2) `install.wim` に `ImageUnattend.xml` セットアップスクリプトをマッピングします。詳細は、68 ページの「[ImageUnattend.xml セットアップスクリプトの作成方法](#)」を参照してください。

- 1 **Windows Server 2008 SP2 DVD** メディアを、**Windows 展開サービス**をホスティングしているシステムの **DVD リーダー**に挿入します。
- 2 **Windows 展開サービス管理ツール**を起動し、**Windows Server 2008 SP2**のインストール **WIM**をインポートします。
  - a. 「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「**Windows 展開サービス**」の順に選択します。
  - b. 「**Install Images (インストールイメージ)**」を右クリックして、「**Add Install Image (インストールイメージの追加)**」を選択します。  
イメージグループが存在しない場合は、Windows Server 2008 SP2 または Windows Server 2008 R2 という名前で新しいイメージグループを作成して、「Next (次へ)」をクリックします。
  - c. 「**Browse (参照)**」をクリックして、`DVDDrive:\sources\install.wim`にある **Windows Server 2008 SP2** インストール **WIM** イメージを選択し、「**Open (開く)**」をクリックしてから「**Next (次へ)**」をクリックします。
  - d. **Windows 展開サービス**にインポートする **Windows Server 2008**のエディション (**Data Center**、**Standard**、または **Enterprise**)を選択して、「**Next (次へ)**」をクリックします。
  - e. **Windows Server 2008**の指定したエディションのインストールイメージをインポートするには、「**Next (次へ)**」を2回クリックしてから、「**Finish (完了)**」をクリックします。
- 3 たとえば次の手順で、**展開ツールコマンドプロンプト**を起動します。  
「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「Microsoft Windows AIK」の順にクリックしてから、「**Deployment Tools Command Prompt (展開ツールコマンドプロンプト)**」を右クリックし、「**Run as Administrator (管理者として実行)**」を選択します。

- 4 展開ツールコマンドプロンプトで、次の手順を実行します。
- a. **cd** コマンドを使用して、**Windows Server 2008 SP2** のインストール WIM を格納しているフォルダに移動します。
- たとえば、Windows Server 2008 SP2 Datacenter (x64) 版の WIM イメージは次の場所にあります。

```
cd Drive:\RemoteInstall\images\Windows Server 2008 SP2
```

- b. **mkdir** コマンドを使用して、インポートした **Windows Server 2008 WIM** イメージとまったく同じつづりおよび大文字/小文字でディレクトリを作成します。

```
mkdir install
```

---

注 - Windows Server 2008 (SP2 または R2) 用のインストールイメージのインポート時にデフォルトを選択すると、`install.wim` という名前のインストール WIM ファイルが作成されます。

---

- c. **cd** コマンドを使用して、インポートした **Windows Server 2008** のフォルダに移動し、次に **mkdir** コマンドを使用して、**Unattend** ディレクトリを作成します。
- たとえば、次のように入力します。

```
cd install
```

```
mkdir Unattend
```

- d. **cd** コマンドを使用して **Unattend** ディレクトリに移動し、次に **copy** コマンドを使用して、この節のこれまでの手順で作成した **ImageUnattend.xml** セットアップスクリプトを **Unattend** ディレクトリにコピーします。

たとえば、次のように入力します。

```
cd Unattend
```

```
copy C:\Unattend\Drivers\{W2K8|W2K8R2}\CataLogs\ImageUnattend.xml
```

- 5 **Windows Server 2008** イメージのプロパティを開きます。

- a. **Windows** 展開サービス管理ツールを起動します。

「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「Windows 展開サービス」の順に選択します。

- b. **Windows** 展開サービス (WDS) 管理ツールで、「**Windows Server 2008 (SP2 or R2) image group (Windows Server 2008 (SP2 または R2) イメージグループ)**」をクリックして展開します。

- c. 「Microsoft Windows Server」を右クリックして「Properties (プロパティ)」を選択します。
- 6 次の手順を実行して、ImageUnattend.xml セットアップスクリプトを Windows Server 2008 (SP2 または R2) イメージにマッピングします。
  - a. Windows Server 2008 イメージのプロパティの「General (全般)」タブで、「Allow image to install in unattended mode (イメージの無人モードでのインストールを許可する)」にチェックマークを付けて、「Select File (ファイルの選択)」をクリックします。
  - b. 前の手順で指定した次の場所を参照します。

```
Drive:\RemoteInstall\images\{W2K8|W2K8R2}\install\Unattend\
ImageUnattend.xml
```
  - c. 「OK」をクリックして、ImageUnattend.xml セットアップスクリプトを Windows Server 2008 WIM イメージにマッピングします。

これで、Windows Server 2008 (SP2 または R2) WIM イメージは、Windows 展開サービスを使用してインストールする準備ができました。
  - d. 展開ツールコマンドプロンプトと Windows 展開サービス管理ツールを終了します。

次の手順 [76 ページの「Tools and Drivers DVD の ISO イメージのダウンロード」](#)

## Tools and Drivers DVD の ISO イメージのダウンロード

サーバーに Tools and Drivers DVD が付属していない場合や、サーバー付属の Tools and Drivers DVD にサーバー用の最新のツールとファームウェアが含まれているかどうかを確認する必要がある場合は、この節で説明するダウンロード手順に従います。

関連項目:

[76 ページの「ISO イメージのダウンロード方法」](#)

### ▼ ISO イメージのダウンロード方法

Tools and Drivers DVD の ISO イメージをダウンロードするには

- 1 各サーバープラットフォームの **Sun** ソフトウェアダウンロードサイトにアクセスします。  
<http://www.oracle.com/technology/software/index.html>
- 2 **Tools and Drivers DVD** の ISO イメージを選択して、アクセス可能なネットワーク上の場所またはローカルストレージ上にダウンロードします。
- 3 インストール用に **ISO** イメージを準備します。  
次のいずれかの操作を行います。
  - 他社のソフトウェアを使用して、Tools and Drivers DVD を作成します。
  - 遠隔 KVMS (Sun ILOM RemoteConsole) を使用して、ISO イメージをマウントします。

参照 79 ページの「Windows でのネットワークインタフェースの確認」



# Windowsでのネットワークインタフェースの確認

---

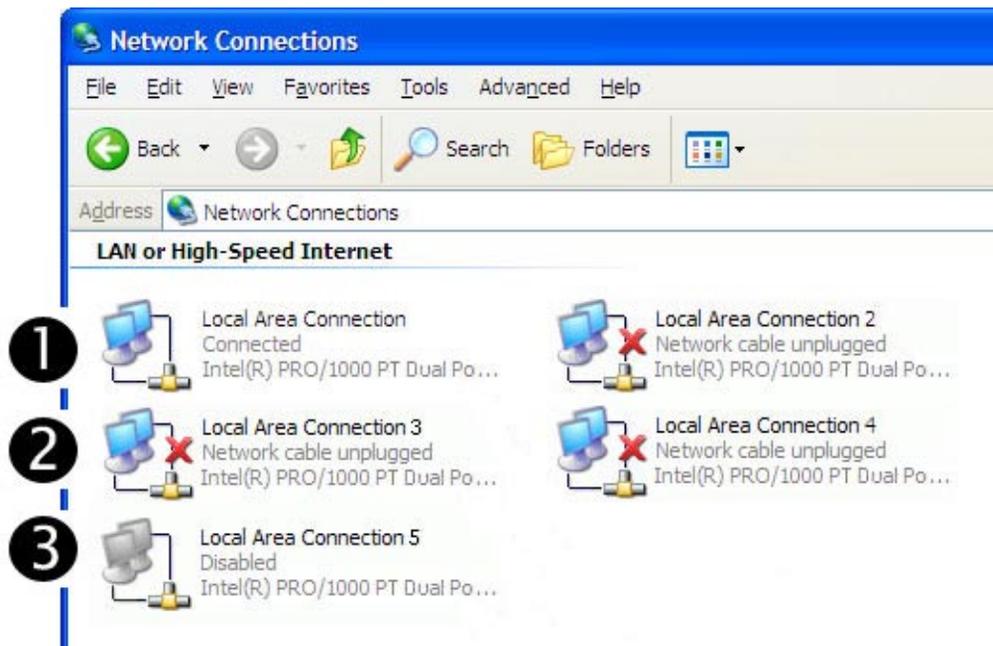
この節では、Windowsでサーバーのネットワークインタフェース設定を確認する方法について説明します。

- [79ページの「サーバーのアクティブなネットワークデータポートの特定方法」](#)
- [80ページの「物理ポートのMACアドレスの確認およびWindowsデバイス名へのマッピング方法」](#)

## ▼ サーバーのアクティブなネットワークデータポートの特定方法

Microsoftのネットワーク接続フォルダを使用して、ネットワークにアクティブに接続されているネットワークデータポートを特定できます。いずれのサーバーネットワークポートがネットワークにアクティブに接続されているかを視覚的に確認することが可能です。ネットワーク接続フォルダにアクセスするには、次の手順を実行します。

- 「スタート」 > 「設定」 > 「コントロールパネル」 > 「ネットワーク接続」の順にクリックします。  
「ネットワーク接続」ウィンドウが開き、アクティブに接続されているデータポートを確認できます。



付記	説明
1	アクティブなポート接続。
2	赤いXマークは、現在ポート接続がアクティブではないことを示します。
3	ポートが手動で無効にされています。再度有効化するには右クリックします。

参照 80 ページの「物理ポートの MAC アドレスの確認および Windows デバイス名へのマッピング方法」

#### ▼ 物理ポートの **MAC** アドレスの確認および **Windows** デバイス名へのマッピング方法

インストールされたネットワークインタフェースポートの MAC アドレスを確認して、Windows デバイス名にマッピングするには、コマンドプロンプトを開いて `ipconfig /all` を実行する必要があります。

- 1 「スタート」 > 「ファイル名を指定して実行」の順に選択します。  
「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスで、**cmd**と入力して「OK」をクリックします。  
cmd.exe DOS コマンドプロンプトウィンドウが表示されます。
- 3 **cmd.exe DOS** コマンドプロンプトウィンドウで、**ipconfig /all** というコマンドを入力します。

ipconfig /all コマンドの出力には、インストールされたネットワークインタフェースポートが接続名ごとに列挙されます。

この出力は、アルファベット順や番号順になるとは限りません。接続名は「ネットワーク接続」ウィンドウでカスタマイズできます。詳細は、Microsoft のドキュメントを参照してください。次の図では、Windows オペレーティングシステムがデフォルトでどのように論理名をネットワークインタフェースに割り当てるかを示しています。

#### Windows IP Configuration

```
Host Name . . . . . : 08R2G58S
Primary Dns Suffix . . . . . : whql.local
Node Type . . . . . : Hybrid
IP Routing Enabled. . . . . : No
WINS Proxy Enabled. . . . . : No
DNS Suffix Search List. . . . . : whql.local
```

#### Ethernet adapter Local Area Connection 8:

```
Connection-specific DNS Suffix . :
Description . . . . . : Intel(R) 82576 Gigabit Dual Port Network
Connection #8
Physical Address. . . . . : 00-21-28-44-CD-A2
DHCP Enabled. . . . . : No
Autoconfiguration Enabled . . . . : Yes
Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::3dc4:70b2:dbc4:a20e%19(Preferred)
IPv4 Address. . . . . : 192.168.10.50(Preferred)
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
Default Gateway . . . . . :
DHCPv6 IAID . . . . . : 637542696
DHCPv6 Client DUID. . . . . : 00-01-00-01-13-55-41-39-00-21-28-44-CD-A3
DNS Servers . . . . . : fec0:0:0:ffff::1%1
                          fec0:0:0:ffff::2%1
                          fec0:0:0:ffff::3%1
NetBIOS over Tcpip. . . . . : Enabled
```

#### Ethernet adapter Local Area Connection 7:

```
Connection-specific DNS Suffix . :
Description . . . . . : Intel(R) 82576 Gigabit Dual Port Network
Connection #7
Physical Address. . . . . : 00-21-28-44-CD-9B
DHCP Enabled. . . . . : No
```

```
Autoconfiguration Enabled . . . . . : Yes
Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::fcb6:ab8:1ea8:c6a5%17(Preferred)
IPv4 Address. . . . . : 192.168.60.50(Preferred)
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
Default Gateway . . . . . :
DHCPv6 IAID . . . . . : 570433832
DHCPv6 Client DUID. . . . . : 00-01-00-01-13-55-41-39-00-21-28-44-CD-A3
DNS Servers . . . . . : fec0:0:0:ffff::1%1
                       fec0:0:0:ffff::2%1
                       fec0:0:0:ffff::3%1
NetBIOS over Tcpi. . . . . : Enabled

Ethernet adapter Local Area Connection 6:

    Connection-specific DNS Suffix . . :
    Description . . . . . : Intel(R) 82576 Gigabit Dual Port Network
    Connection #6
    Physical Address. . . . . : 00-21-28-44-CD-9A
    DHCP Enabled. . . . . : No
    Autoconfiguration Enabled . . . . . : Yes
    Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::f45c:b870:efe2:54d7%16(Preferred)
    IPv4 Address. . . . . : 192.168.20.50(Preferred)
    Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
    Default Gateway . . . . . :
    DHCPv6 IAID . . . . . : 520102184
    DHCPv6 Client DUID. . . . . : 00-01-00-01-13-55-41-39-00-21-28-44-CD-A3
    DNS Servers . . . . . : fec0:0:0:ffff::1%1
                       fec0:0:0:ffff::2%1
                       fec0:0:0:ffff::3%1
    NetBIOS over Tcpi. . . . . : Enabled

Ethernet adapter Local Area Connection 5:

    Connection-specific DNS Suffix . . :
    Description . . . . . : Intel(R) 82576 Gigabit Dual Port Network
    Connection #5
    Physical Address. . . . . : 00-21-28-44-CE-2B
    DHCP Enabled. . . . . : No
    Autoconfiguration Enabled . . . . . : Yes
    Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::8d16:989a:ef66:21fc%15(Preferred)
    IPv4 Address. . . . . : 192.168.70.50(Preferred)
    Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
    Default Gateway . . . . . :
    DHCPv6 IAID . . . . . : 436216104
    DHCPv6 Client DUID. . . . . : 00-01-00-01-13-55-41-39-00-21-28-44-CD-A3
    DNS Servers . . . . . : fec0:0:0:ffff::1%1
                       fec0:0:0:ffff::2%1
                       fec0:0:0:ffff::3%1
    NetBIOS over Tcpi. . . . . : Enabled

Ethernet adapter Local Area Connection 4:

    Connection-specific DNS Suffix . . :
    Description . . . . . : Intel(R) 82576 Gigabit Dual Port Network
    Connection #4
    Physical Address. . . . . : 00-21-28-44-CE-2A
    DHCP Enabled. . . . . : No
    Autoconfiguration Enabled . . . . . : Yes
    Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::ecc8:9a72:ca4a:f6a8%14(Preferred)
```

```
IPv4 Address. . . . . : 192.168.30.50(Preferred)
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
Default Gateway . . . . . :
DHCPv6 IAID . . . . . : 419438888
DHCPv6 Client DUID. . . . . : 00-01-00-01-13-55-41-39-00-21-28-44-CD-A3
DNS Servers . . . . . : fec0:0:0:ffff::1%1
                       fec0:0:0:ffff::2%1
                       fec0:0:0:ffff::3%1
NetBIOS over Tcpi. . . . . : Enabled
```

## Ethernet adapter Local Area Connection 3:

```
Connection-specific DNS Suffix . :
Description . . . . . : Intel(R) 82576 Gigabit Dual Port Network
Connection #3
Physical Address. . . . . : 00-21-28-44-CD-BB
DHCP Enabled. . . . . : No
Autoconfiguration Enabled . . . . : Yes
Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::436:f2c5:82d:9b45%13(Preferred)
IPv4 Address. . . . . : 192.168.40.50(Preferred)
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
Default Gateway . . . . . :
DHCPv6 IAID . . . . . : 352330024
DHCPv6 Client DUID. . . . . : 00-01-00-01-13-55-41-39-00-21-28-44-CD-A3
DNS Servers . . . . . : fec0:0:0:ffff::1%1
                       fec0:0:0:ffff::2%1
                       fec0:0:0:ffff::3%1
NetBIOS over Tcpi. . . . . : Enabled
```

## Ethernet adapter Local Area Connection 2:

```
Connection-specific DNS Suffix . :
Description . . . . . : Intel(R) 82576 Gigabit Dual Port Network
Connection #2
Physical Address. . . . . : 00-21-28-44-CD-BA
DHCP Enabled. . . . . : Yes
Autoconfiguration Enabled . . . . : Yes
Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::6565:3371:68b7:8fc9%12(Preferred)
IPv4 Address. . . . . : 192.168.1.83(Preferred)
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
Lease Obtained. . . . . : Friday, April 23, 2010 1:15:30 PM
Lease Expires . . . . . : Sunday, April 24, 2011 1:15:29 PM
Default Gateway . . . . . :
DHCP Server . . . . . : 192.168.1.1
DHCPv6 IAID . . . . . : 301998376
DHCPv6 Client DUID. . . . . : 00-01-00-01-13-55-41-39-00-21-28-44-CD-A3
DNS Servers . . . . . : 192.168.1.1
NetBIOS over Tcpi. . . . . : Enabled
```

## Ethernet adapter Local Area Connection:

```
Connection-specific DNS Suffix . :
Description . . . . . : Intel(R) 82576 Gigabit Dual Port Network
Connection
Physical Address. . . . . : 00-21-28-44-CD-A3
DHCP Enabled. . . . . : No
Autoconfiguration Enabled . . . . : Yes
Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::914f:4a32:d51a:648b%11(Preferred)
IPv4 Address. . . . . : 192.168.50.50(Preferred)
```

```
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
Default Gateway . . . . . :
DHCPv6 IAID . . . . . : 234889512
DHCPv6 Client DUID. . . . . : 00-01-00-01-13-55-41-39-00-21-28-44-CD-A3
DNS Servers . . . . . : fec0:0:0:ffff::1%1
                        fec0:0:0:ffff::2%1
                        fec0:0:0:ffff::3%1
NetBIOS over Tcpi. . . . . : Enabled

Tunnel adapter isatap.{1C6FCDB6-1785-4754-9835-0875D96FD9BE}:

Media State . . . . . : Media disconnected
Connection-specific DNS Suffix . :
Description . . . . . : Microsoft ISATAP Adapter
Physical Address. . . . . : 00-00-00-00-00-00-E0
DHCP Enabled. . . . . : No
Autoconfiguration Enabled . . . . : Yes

Tunnel adapter isatap.{9525B926-8C1F-469D-B302-F12890BF74E2}:

Media State . . . . . : Media disconnected
Connection-specific DNS Suffix . :
Description . . . . . : Microsoft ISATAP Adapter #2
Physical Address. . . . . : 00-00-00-00-00-00-E0
DHCP Enabled. . . . . : No
Autoconfiguration Enabled . . . . : Yes

Tunnel adapter isatap.{2B983248-1D90-41CA-920B-BE387D88F320}:

Media State . . . . . : Media disconnected
Connection-specific DNS Suffix . :
Description . . . . . : Microsoft ISATAP Adapter #3
Physical Address. . . . . : 00-00-00-00-00-00-E0
DHCP Enabled. . . . . : No
Autoconfiguration Enabled . . . . : Yes

Tunnel adapter isatap.{839E5C39-B7AB-49C0-8BA3-38F5E2688745}:

Media State . . . . . : Media disconnected
Connection-specific DNS Suffix . :
Description . . . . . : Microsoft ISATAP Adapter #4
Physical Address. . . . . : 00-00-00-00-00-00-E0
DHCP Enabled. . . . . : No
Autoconfiguration Enabled . . . . : Yes

Tunnel adapter isatap.{3292E9DB-E6AA-4611-8612-961DEA5112C0}:

Media State . . . . . : Media disconnected
Connection-specific DNS Suffix . :
Description . . . . . : Microsoft ISATAP Adapter #5
Physical Address. . . . . : 00-00-00-00-00-00-E0
DHCP Enabled. . . . . : No
Autoconfiguration Enabled . . . . : Yes

Tunnel adapter isatap.{0AAB6818-15D4-4CFA-BC13-68FD3FBCBFB0}:

Media State . . . . . : Media disconnected
Connection-specific DNS Suffix . :
Description . . . . . : Microsoft ISATAP Adapter #6
```

```
Physical Address. . . . . : 00-00-00-00-00-00-E0
DHCP Enabled. . . . . : No
Autoconfiguration Enabled . . . . : Yes
```

Tunnel adapter isatap.{7A0F9D94-E16F-4F8F-B07E-CE66F446BB26}:

```
Media State . . . . . : Media disconnected
Connection-specific DNS Suffix . :
Description . . . . . : Microsoft ISATAP Adapter #7
Physical Address. . . . . : 00-00-00-00-00-00-E0
DHCP Enabled. . . . . : No
Autoconfiguration Enabled . . . . : Yes
```

Tunnel adapter isatap.{DE3F60D0-D0DF-49A5-9168-14F27BACAD4B}:

```
Media State . . . . . : Media disconnected
Connection-specific DNS Suffix . :
Description . . . . . : Microsoft ISATAP Adapter #8
Physical Address. . . . . : 00-00-00-00-00-00-E0
DHCP Enabled. . . . . : No
Autoconfiguration Enabled . . . . : Yes
```

各エントリの内容は次のとおりです。

Ethernet adapter Local Area Connection

1つ目の Ethernet アダプタポート。

Ethernet adapter Local Area Connection 2

2つ目の Ethernet アダプタポート。

Ethernet adapter Local Area Connection 3

3つ目の Ethernet アダプタポート。

この出力例では、次のようになっています。

- Ethernet Adapter Local Area Connection は、ネットワークインタフェースに割り当てられた Windows のデフォルトの論理名 (フレンドリ名) です。  
1つ目の Ethernet Adaptor Local Area Connection には null 値が含まれています。このエントリは、接続固有の DNS サフィックス (east.sun.com など) と該当ポートの物理 MAC アドレスを示します。
- Ethernet Adapter Local Area Connection 2 は、切断されたメディア状態、説明、該当ポートの物理 MAC アドレスを示します。
- Windows 論理フレンドリ名の後続の数値は、ネットワーク接続番号を表します。

参照 79 ページの「サーバーのアクティブなネットワークデータポートの特定方法」



# 索引

---

## I

- ImageUnattend.xml セットアップスクリプト  
[ImageUnattend.xml セットアップスクリプト], 68-71
- インストールイメージへのマッピング[インストールイメージへのマッピング], 74-76
- Intel NIC チューニング[Intel NIC チューニング], 61
- IPMItool、使用要件[IPMItool、使用要件], 60

## J

- JavaRConsole、セットアップ  
[JavaRConsole、セットアップ], 23-30

## L

- LSI MegaRAID Storage Manager (MSM)[LSI MegaRAID Storage Manager MSM], 59
- LSI ディスクコントローラソフトウェア  
[LSI でいくとらそふとうえあ], 59

## M

- MAC アドレス[MAC あどれす], 確認、マッピング[かくにん、まっぴんぐ], 80-85
- MegaRAID Storage Manager (MSM)[MegaRAID Storage Manager MSM], 59

## N

- NIC チューニング[NIC チューニング], 61

## P

- PXE[PXE], を使用したインストール[をしようた いんすとーる], 52-53

## R

- RAID[RAID], 14

## S

- SIA を使用した BIOS とファームウェアのアップグレード[SIA をしようた BIOS とふあーむうえあ のあつぐれーど], 19-20
- SIA を使用したオペレーティングシステムのインストール[SIA をしようたおぺれーていんぐし すてむのいんすとーる], 19-20
- SIA を使用したサービスプロセッサの回復[SIA をしようたさーびすぷろせっさのかいふく], 19-20
- SIA を使用したファームウェアのアップグレード [SIA をしようたふあーむうえあ のあつぐれーど], 19-20
- Sun Installation Assistant (SIA)[Sun Installation Assistant SIA]  
サポートされる作業[さぼーとされるさぎょう], 19

Sun Installation Assistant (SIA)[Sun Installation Assistant SIA] (続き)  
概要[がいよう], 19-20  
最新バージョンの入手[さいしんばーじょんのにゅうしゅ], 20

## T

TPM[TPM], 60  
Trusted Platform Module[Trusted Platform Module], 60

## W

WAIK[WAIK], 65  
WIM[WIM], 65  
WIM イメージ[WIMいめーじ], 63-77  
Windows AIK[Windows AIK], 65  
Windows のインストール[Windowsのいんすとーる], 47  
Windows インストール[Windowsいんすとーる], 47  
Windows インストールのオプション[Windowsいんすとーるのおぷしょん], 14  
Windows インストールオプション[Windowsいんすとーるのおぷしょん], 14  
Windows メディア[Windowsめでいあ]  
CD-ROM のリダイレクト[CD-ROMのりだいくと], 29  
CD イメージのリダイレクト[CDいめーじのりだいくと], 29  
Windows メディアへの遠隔コンソールのリダイレクト[Windowsめでいあへのえんかくこんそーるのりだいくと], 23-30  
Windows、サポートされるバージョン [Windows、さぼーとされるばーじょん], 13

## I

インストール手順[いんすとーるてじゅん], 11-12

## サ

サーバー固有ドライバパッケージのダウンロード [さーばーこゆうどらいばぱっけーじのだうんろーど], 21-22  
サポートされる Windows バージョン[さぼーとされるWindowsばーじょん], 13

## デ

データポート[でーたぽーと], 確認[かくにん], 79-80  
デバイスドライバ[でばいすどらいば], 56-57  
の場所[のばしょ], 63  
ブート WIM への追加[ぶーとWIMへのついか], 71-73  
選択[せんたく], 64  
組み込み[くみこみ], 63-77

## ド

ドキュメント, 5-8  
ドライバ[どらいば]  
ダウンロードサイト[だうんろーどさいと], 21-22  
ダウンロード手順[だうんろーどてじゅん], 21-22  
更新[こうしん], 55-61

## ネ

ネットワークインタフェース[ねっとわーくいんたふえーす], 確認[かくにん], 79-85

## ブ

ブートディスク[ぶーとでいすく]  
RAID に含める[RAIDにふくめる], 14  
RAID を含める[RAIDをふくめる], 47-52

## メ

メディアの取得[めでいあのしゅとく]

WDS使用 Windows WIM[WDSしようWindows WIM], 17

Windows リモート[Windowsりもーと], 17

Windows ローカル[Windowsろーかる], 17

メディアを取得[めでいあをしゅとく], Windows

ISO イメージ[Windows ISOいめーじ], 17

## 遠

遠隔コンソールからの Windows のインストール[

えんかくこんそーるからのWindowsのいんす

とーる], 23-30

## 仮

仮想ディスク

作成, 31-46

## 概

概要[がいよう], 11-12

## 追

追加ソフトウェア[ついかそふとうえあ], 57

